平　成　２７　年　度

事　業　報　告　書

自：平成２７年　４月　１日

至：平成２８年　３月３１日

社会福祉法人　　つどいの家

目　　次

平成２７年度総括（理事長より）　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　１

法人本部事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ　３

仙台つどいの家事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１４

つどいの家・コペル事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ１７

つどいの家・アプリ事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２１

八木山つどいの家事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２５

若林障害者福祉センター事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ２８

地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告　・・・・・・・・・　Ｐ３２

地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」事業報告　・・・・・・・・・・　Ｐ３５

地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告　・・・・・・・・・・　Ｐ４２

共同生活援助（グループホーム）事業報告　・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ５２

（参考資料）
・利用実績報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　Ｐ５６

平成２７年度事業　総括

はじめに

平成２８年度からはじまる社会福祉法人制度改革にむけて、どのような事態となろうとも当法人の経営が持続可能となるように、経営全体を見直し、就業規則をはじめ、諸規程に齟齬がないように整備しなければならないと思った。また、組織の再編成や、次期役員選出に向けての準備をしなければならない。そこで２７年度は、その手始めとして、次記の取り組みを行った。

平成２７年度（現状評価）経営方針に従った評価

① 本人の意思を大切にし、本人主体の支援に努める。

本人の意思を大切にしなければならないということは、保護者はともかく職員間には、しっかり浸透している。したがって、事を行うときには、必ず意思の確認をするように求めているのだが、知的障害の程度が重いために、自己決定を求められても自分で判断できない人や、明白な選択ができない人が多いことも確かである。それは、知的障害がある人の人権が認められなかった歴史が長く、誰もが、彼らを何も解らない人、保護すべき人として、本人に意思があることに注目しなかったために、支援する側に意思確認のノウハウが蓄積されていないことにも起因する。また、個別支援計画を作る時のアセスメントには、毎日ともに過ごす家族の意向が反映されやすく、必ずしも本人が望む支援にならない。また、知的障害の方の社会体験は浅く、危険回避の意識が薄く、反社会的な行動にも走りやすい。本人の意思だからと言って、何もかも許容するわけにいかないこともある。行動の制限や拘束はなるべくしたくないのだが、本人に責任能力がないがゆえに悩ましい。本年は外出時にヘルパーが付き添いながら、ちょっと目を離したすきに、痴漢行為をした利用者がいて、未然に防ぐことができなかったことが悔いられる。日頃の性の支援の在り方から、見直さなければならない。自己決定支援については支援者の専門性の育成が急務である。

② 職員養成に力を入れる。

職員研修委員会を中心として、夕方の時間を使って、毎年職位ごと部門ごとの研修を実施してきた。しかし、勤務の時間帯や曜日もバラバラなパート職員の研修参加が難しかった。この課題を解決すべく、今年度は思い切って、給付費は入らないことになるが（約３５０万円）、法人設立記念日を休館日とし、パート職員一斉研修日とした。利用者にも理解していただき、職員にも喜ばれた。また、資格取得補助金や、資格手当の制度化で、職員のモチベーションが上がってきたように思う。専門性の育成のためには、先進施設視察研修や、外部講師の活用が必要であるが、職員に余裕がなく、予算をとるのも厳しい。職員が自主的に問題意識を持ち、研鑽するようになればいいのだが。

③ 雇用の工夫・職員を確保・適正な労務管理・楽しく安心な職場づくり

少子高齢化、震災復興、大企業の景気回復、等々の影響で福祉人材不足は深刻である。法人では、年度当初から、施設紹介ビデオやパンフを作成し、管理者が手分けして各大学専門学校を回った。また、ハローワークや人材センターの活用のほか、新聞雑誌に広告を出すなどの努力をしたが、こちらが望むような人は集まらなかった。仕方なく、人材紹介会社に頼らざるを得ないことになったが、紹介料として、雇用した人の年収の２５パーセント～３５パーセントの支払いを求められた。

人がいなければ支援が続けられないので、背に腹は代えられないとばかりの苦肉の策ではあったが、大変な世の中になってしまった。労務管理については、２６年度の反省から、社会福祉労務士と契約し、指導助言を受けながら、１年をかけて就業規則を作り直したことで、解りやすく、管理しやすくなったと思う。

楽しく安心な職場づくりとは、まず、自分の働きが正当に認められるということだろうと、給与規程の見直しも行った。また、職員会の自主的なレク活動を奨励し、新職員歓迎会、忘年会の開催等で、職員間の交流を図っているが、子育て世代は皆忙しく、参加者が限られるのが課題である。しかし、職員は、皆優しく、明るい。

④ リスクマネージメント、コンプライアンス遵守

障害程度も、種類も違う重い障害がある人が混在しているために、危険回避には、ケースワークの徹底による細心の注意が必要である。ヒヤリハット活動により、共有化を図っているが、転倒事故が防げない場合がある。本人の自分で移動したい意思を大切にもしたい。そのためには、転倒しても安全な環境整備が大切であるが、活動スペースを広げようにも、予算が伴うのでままならない。施設での事故は、施設管理者保険対応になるが、まだ未解決のケースもあり、保険会社との契約も見直した。その他防災マニュアルの見直しをして、各所で、無線連絡の練習も重ねた。

コンプライアンス遵守については、身に染みて感じている。労基法をよく知らなければならない。社労士と顧問契約をしたことで、就業規則の見直しができたことは、大きな収穫であった。また、職員が５０人以上の事業所には、産業医を配置しなければならないとの指摘を受けていた。２７年度は、産業医との嘱託契約ができて、毎月衛生委員会を開催できてほっとしている。

⑤ 柔軟な組織（可視化、共有化）で職員の力を最大限にいかす。

可視化、共有化と云うが発信には努めても、受け手が応えなければ、組織は、動かない。無限の可能性を秘めている筈の職員たちの胸に響く発信ができる、対話のある組織づくりが目標である。

⑥ 街に繰り出る活動、地域交流を進めるイベントの開催で地域を耕す。

各事業所とも、街に繰り出て地域を耕す活動には力を入れているが、日常の支援で精一杯でイベントの開催は、難しくなってきたので、法人本部と後援会の共催でセミナーを開催した。上野千鶴子さんの講演会は大好評で、多くの人に老人や、障がい者の介護について考えてもらうきっかけとなり、他団体とのつながりも生まれた。

⑦ 企業や地域の人々の協力を仰ぎ、バザー等の収益活動や後援会の増口運動や、募金箱設置等で資金確保に努める。

保護者も職員も頑張っているが、危機感がない。社会福祉法人が置かれている環境を見直し、新たな戦略を生み出さなければ、立ち行かないであろう。

平成２７年度重点事業に従った評価

① 地域活動センター「八木山つどいの家」の、生活介護事業所への、機能変更と改修工事

本体工事は、市が行うことであったが、今年も契約不調により、また先延ばしとなった。従って、生活介護事業所になるのは、１０月となり給付費も入らないが、見切り発車で、職員も配置した。外構工事は、当法人で予算化しフェンスの取り付けや、喫茶店開業に向けての壁面装飾は着々とすすんでいる。

② グループホームの拡充　やっと、建て貸しで建物の確保の目途がついた。２８年度事業となる。

法人本部　　事業報告

１．理事会、評議員会の開催

■　理事会開催内容

月　　日	議案内容	採決結果	出席役員
第１回 H27.5.23（土）	第１号　平成 26 年度事業報告に関する件	可決	理事長　下郡山和子 理　事　高橋　治 理　事　下郡山徹一（書面） 理　事　阿部　達 理　事　三浦　俊一 理　事　川住　隆一 理　事　久保野恵美子 理　事　細井　実（書面） 理　事　佐藤　吉久 監　事　村上　秀一 監　事　内出　琢也 ※　理　事　　９名 （内、書面出席２名） ※　監　事　　２名
	第２号　平成 26 年度決算報告に関する件	可決	
	第３号　運営規程の一部改正案に関する件 ≪概要≫障害福祉サービス事業等における看護職員等配置体制加算創設に伴う職員配置体制の変更	可決	
	第４号　職員等の労務問題等に関する件	－	
第２回 H27.10.3（土）	第１号　グループホームにおけるスプリンクラー設備整備に伴う業者選定等に関する件 ≪概要≫消防法改正に伴うグループホームへのスプリンクラー設備設置義務化に伴い、国庫補助事業による設備整備と業者選定方法等について審議	可決	理事長　下郡山和子 理　事　高橋　治 理　事　下郡山徹一 理　事　阿部　達 理　事　細井　実 理　事　久保野恵美子 理　事　川住　隆一 理　事　三浦　俊一 理　事　佐藤　吉久 監　事　村上　秀一 監　事　内出　琢也 ※　理　事　　９名 （内、書面出席０名） ※　監　事　　２名
	第２号　マイナンバー制度導入に伴う安全管理対策及び取扱規程の整備等に関する件 ≪概要≫マイナンバー制度開始に伴う法人としての特定個人情報等の安全管理を講ずるための措置（基本方針、諸規程の整備など）について審議	可決	
	第３号　平成 27 年度第１次補正予算案に関する件 ≪概要≫補正額：総収入 45,795 千円、総支出 69,703 千円の増額補正（主：マイナンバー開始に伴う安全管理措置、非常勤職員処遇改善、八木山環境整備、他）	可決	
	第４号　居宅介護等事業所における運営規程の一部改正案に関する件 ≪概要≫生活サポート事業の廃止に伴う運営規程の一部改正案について審議	可決	
	第５号　評議員の選任案に関する件 ≪概要≫評議員１名の辞任に伴う後任について審議	可決	
	第６号　管理職の人事案に関する件 ≪概要≫管理者１名の交代人事案について審議	可決	
	第７号　職員等の労務トラブルにおける経過報告に関する件	－	
第３回 H28.3.26（土）	第１号　平成 27 年度第２次補正予算案に関する件 ≪概要≫補正額：総収入 5,135 千円、総支出 9,754 千円の増額補正（主：積立金の積み増し、他）	可決	理事長　下郡山和子 理　事　下郡山徹一 理　事　阿部　達 理　事　細井　実 理　事　三浦　俊一（書面） 理　事　川住　隆一
	第２号　管理職人事案に関する件 ≪概要≫定款第12条第２項による平成28年度管理職人事案について審議	可決	

	第３号　苦情解決第三者委員の任期満了に伴う選任に関する件 ≪概要≫任期満了に伴う苦情解決第三者委員の選任について審議	可決	理　事　久保野恵美子 理　事　佐藤　吉久 監　事　村上　秀一 監　事　内出　琢也 ※　理　事　　８名 （内、書面出席１名） ※　監　事　　２名
	第４号　社会福祉法人制度改革に伴う今後の対応等に関する件 ≪概要≫社会福祉法改正案（国会審議）成立後の法人として検討すべき事項及び諸準備などについて審議	可決	
	第５号　就業規則及び附属規程等の創設、一部改正案に関する件 ≪概要≫職員就業規則の抜本的な見直しを図り、法改正や多様な働き方などに対応するための措置について審議	（一部除き）可決	
	第６号　諸規程の一部改正案に関する件 ≪概要≫経理規程、文書取扱規程、事務決裁規程及び個人情報・特定個人情報保護規程等の一部改正案について審議	可決	
	第７号　グループホーム新設計画に関する件 ≪概要≫新規グループホーム整備計画案（平成 28 年度開設予定）について審議	可決	
	第８号　平成 28 年度事業計画案に関する件	可決	
	第９号　平成 29 年度当初予算案に関する件 ≪概要≫収入総額：963,672 千円、支出総額：1,014,241 千円、収支差額：△50,569 千円とする予算案について審議	可決	

■　評議員会開催内容

月　　日	議案内容	採決結果	出席者数
第１回 H27.5.22（金）	第１回理事会に同じ （但し、第４号議案を除く）	全議案 可　決	評議員　１１名
第２回 H27.10.2（金）	第２回理事会に同じ （但し、第５～７号議案を除く）	全議案 可　決	評議員　１５名
第３回 H28.3.24（木）	第３回理事会に同じ （但し、第２～３号議案を除く）	全議案 可　決	評議員　１５名

２．監査等（内外部）の実施

項　目		監査内容	監査員	指摘事項等
監事監査 H27.5.16（土）		事業年度（平成 26 年度）に係る業務執行状況及び財産状況	村上監事 内出監事	労務管理の適正な対処など
監事監査（会計） H27.11.28（土）		平成 27 年度上半期決算に係る会計処理等進捗確認	内出監事	特になし
行政監査等	事業所実地 H27.6.2（火）	指定特定相談支援（ゆあらいふ）人事労務管理、経理、利用者処遇	市職員 ４名	特になし
	事業所実地 H27.7.24（金）	特例生活介護・児童発達支援事業（ミント）人事労務管理、経理、利用者処遇	市職員 ３名	特になし

	法人実地 H27.9.25（金）	社会福祉法人の運営管理、経理	市職員 ３名	指摘事項なし 指導事項：評議員の低調出席者の件、経理規程に準じていない取扱の是正、契約書類の整備など
	集団指導 H28.2.22（月） 集団指導 H28.3.10（木）	制度改正関係説明、労働基準関係法令、障害福祉サービス事業者等の指導監査結果、障害者虐待防止、利用者のマイナンバー取扱等	－	
	※その他事業所実地監査については実施なし			
内部点検（各事業所） H27.10～11		会計処理方法・労務管理状況、他	事務長	

３．苦情解決委員会の実施

日　時	報告・検証事項	出席者数
第１回 H27.10.16（金）	■つどいの家・コペル(3 件) ・送迎時の運転手、添乗者の不注意に対する苦情（保護者） ・作業手当の支給方法変更の説明に関する苦情（保護者） ・ゲートボール場入り口の駐車に関する苦情（近隣住民） ■つどいの家・アプリ(2 件) ・つばを吐く利用者への職員対応に関する苦情（保護者） ・バザーの出欠一覧表の一斉配布に対する苦情（保護者） ■ぴぼっと支倉(1 件) ・外へ飛び出す利用者への職員対応に関する苦情（保護者） ■グループホーム(1 件) ・車の停め方に関する苦情(近隣住民)	第三者委員　２名／３名 受付担当者　５名／９名 解決責任者　６名／７名
第２回 H28.3.16（水）	■仙台つどいの家(1 件、未解決１件) ・パン外販先での利用者の奇声に対する苦情（販売先） ・利用者右目周辺の原因不明のあざに対する苦情（保護者） ■つどいの家・コペル(1 件) ・かりんとう外販先での職員の対応に関する苦情（販売先） ■ぴぼっと支倉(1 件) ・レスパイト時のやけど及び送迎に対する苦情（保護者） ■グループホーム(1 件) ・駐車場スロープの隣家への移動に対する苦情（近隣住民）	第三者委員　３名／３名 受付担当者　６名／９名 解決責任者　７名／７名

４．法人組織運営体制（内部委員会組織）の実施

部門	会議名	主たる内容・成果	構成員	実施回数
主要会議	経営会議	経営方針立案、人事案など	理事長及び管理職者	２５回
	いちにの会	法人中長期計画立案のための検証	理事長及び管理職者	８回
	事業運営会議	各事業課題抽出と解決策立案など 法人内ヒヤリハット集計・検証	管理職・係長職及び委員会主担当	６回
	マスタープラン推進委員会	マスタープラン進捗管理	管理職・係長職及び委員会主担当	２回
	衛生委員会	労働安全衛生法に定める事項の検証	産業医、衛生管理者及び経営会議構成員	１２回

経営部門委員会	権利擁護・虐待防止委員会	権利擁護・しょうがい者への虐待防止全般にわたる検討。『虐待防止とその対応に関するガイドライン』の作成。	経営会議で定めた者	６回
	防災委員会	法人大規模災害対策検討など	各事業所防災担当者	６回
	職員研修養成委員会	常勤職員研修企画・立案、非常勤研修など	経営会議で定めた者	７回
	医療的ケア対応ＧＨ創設プロジェクト委員会	医療的ケア対応グループホーム創設に向けた課題抽出と検証、運営方法等の検討など	経営会議で定めた者	２回
	八木山推進プロジェクト委員会	生活介護移行に向けた検討、改修計画立案、事業運営内容等及び経営状況等の検証など	経営会議で定めた者	６回
事業運営部門	居住支援検討委員会	今後のグループホーム開設に向けた課題検討、今後のＧＨ開設計画整理のためのアンケート実施など	ＧＨ管理者及び経営会議で定めた者	５回
	地域生活検討委員会	レスパイト、相談支援、ヘルパー事業に従事する者の情報交換、課題抽出・検討など	ｻﾎﾟｰﾄｾﾝﾀｰ長、レスパイト、相談支援、ヘルパー事業担当者	回
	日中活動支援検討委員会	共通・固有の課題解決、情報共有・共通認識など	通所事業管理者、サービス管理責任者	５回
	医療的ケア検討委員会	医療的ケアに関する情報共有、家族懇談会の実施、医療的ケア実施時における異性介助の整理、アンケート実施計画など	経営会議で定めた者	４回
	看護師会議	法人看護師間における情報交換、共有のほか、感染症対策の検討、事業所間フォロー体制の確立など	看護師	回
情報交換調整	食事サービス従事者連絡会	職種毎、部署毎の従事者による情報交換、事業を担当する職員間での連絡調整など	栄養士、調理員他	２回
	PT・OT 情報交換会		PT・OT	２回
	日中活動チーフ連絡会		通所：各サビ管・各チーフ	３回

５．法人内部研修の実施

（職　制）

月	日	曜	項　目	内　　容	参加者数
4	3	金	新任職員研修	**テーマ「つどいの家の理念と歩み・福祉の動向」** ～社会人への意識転換、福祉の心構えと知識、組織の現状理解～ 講師：理事長　下郡山和子 会場：つどいの家・コペル	１７名
4	10	金	新任考課者研修	**テーマ「人事考課の基礎～目的と仕組みの理解」** ～考課の基礎的知識と技術習得、リーダーの育成～ 講師：管理者　福地慎治 会場：つどいの家・コペル	８名
5	14	金	基礎研修① （職能等級1～2級）	**テーマ「生活介護事業　～個別支援計画・意思決定支援」** ～実践的知識の習得、専門性・職能の確立～ 講師：管理者　石道敦 会場：つどいの家・コペル	４８名
―	―	―	基礎研修②	**テーマ「相談支援事業　～サービス等利用計画」** ～実践的知識の習得、専門性・職能の確立～	―

			（職能等級1～2級）	＊相談支援事業担当者　多忙のため未実施	
7	23	木	中堅者研修① （職能等級3～5級）	テーマ「ディスカッション　ディベート」 （入所施設・通所について ／精神科病院の病床転換型住居施設について） ～福祉知識情報を習得、応用力・想像力・対話力を養う～ 進行：管理者　大累貴司 会場：つどいの家・コペル	４９名
8	25	火	中堅者研修② （職能等級3～5級）	テーマ「経営管理について」 ～組織の維持管理、総合的戦略形成力～ 講師：管理者 佐藤吉久 会場：つどいの家・コペル	３２名
10	20	火	管理職・ﾘｰﾀﾞｰ研修 （職能等級6～8級）	テーマ「ジェンダー論に関する基礎知識を学ぶ」 講師：性と人権ネットワーク ESTO　内田有美氏 会場：つどいの家・コペル	１７名
9	9	水	考課者研修①	テーマ「育成と考課の中間振り返り」 ～適切な指導、援助力、評価力の定着～ 進行：研修養成委員 可野裕一　＊グループ討議 場所：つどいの家・コペル	３５名
12	4	金	考課者研修②	テーマ「考課段階のズレの修正」 ～適切な指導、援助力、評価力の定着～ 進行：研修養成委員 可野裕一　＊グループ討議 場所：つどいの家・コペル	３２名
7	1	水	非常勤・登録ヘルパー・介護人研修	全体テーマ： 「つどいの家の沿革や法人理念に関する共通理解を深める」 講師：理事長　下郡山和子 分科会テーマ： 「しょうがい特性について①重心・難病・身体介護など」 講師　管理者　渡部正史 「しょうがい特性について②発達しょうがい」 講師：管理者　山口収・佐藤智昭 「車いす操作と公用車の操作について」 講師：管理者　石道敦・OT　田山真希 「利用者との関係性について」 講師：管理者　福地慎治・飯田克也 場所：つどいの家・コペル	１０３名
10	29	木	職員座談会	テーマ「差別解消法について」 ～制度理解、課題の共有～ ファシリテーター：管理者　福地慎治 場所：宮城野区中央市民センター２F　会議室	８６名

（権利擁護委員会主催内部研修・セミナー等）

法人内職員の権利擁護の意識を高めること。自らの支援を振り返り、権利侵害が起こる背景や予防する為に必要なことを考える機会を持つ為、下記の日程で職員を対象とした内部研修を実施しました。

また、当法人の通所系事業所を利用されている方々（ご本人）が自らの気持ちを話し合う機会を持つ為、本人向けセミナーを開催しました。

月	日	曜日	内　　容
9	15	火	ぴぼっと支倉　ぴぼっと南光台　内部研修※2 事業所合同開催　参加者：14 名（※宮城学院女子大学　社会福祉士実習生 1 名を含む）
9	24	木	仙台つどいの家　内部研修　参加者：17 名
10	23	金	北部グループホーム　内部研修　参加者：17 名

10	29	木	ピボット若林職員内　内部研修　参加者：16名
11	16	月	南部グループホーム　内部研修　参加者：16名
11	25	水	つどいの家・アプリ　八木山つどいの家　内部研修※2 事業所合同開催 参加者：33名
11	28	金	つどいの家・コペル　若林障害者福祉センター※2 事業所合同開催　参加者：23名
11	27	金	『はなしすっぺし～好きなこと～』（本人向けセミナー） 参加者：利用者14名　委員会メンバー7名　　付添職員7名　　合計28名

６．第３期(平成２４年度～)法人マスタープランの推進

平成２４年度より施行している第３期マスタープランについては、項目ごとにその進捗状況等を評価し、課題解決に向けた取り組みと情報の全体共有、新たに見出された諸課題の発見等に繋げております。第４期プラン策定に向けて、社会福祉法人制度改革の情勢を踏まえつつ、中長期的な視点で法人のビジョンを検討する必要性があるため、計画期間をさらに１年延長することとしました。

大項目	中項目	小項目	内　容	評価分類
経営財務	事業展開	八木山つどいの家	利用増と喫茶事業への取り組み	C
	震災復興		震災復興計画の推進	B
			他地域への支援体制の構築	C
	人材育成	仕組み作り	安定した人材確保に向けて	C
			人材育成システムの確立	B
			職員処遇改善	B
事業運営	権利擁護	差別禁止条例	市における「しょうがい者差別禁止条例制定に向けて	B
	居住支援	事業展開	新規ケアホーム開設	B
			自立体験ステイ事業の今後の在り方整備	B
		運営体制整備	居住支援部門の組織確立	B
			ＧＨ人員配置整備と世話人育成	A
	医療的ケア	日中活動	安定した事業運営と受け入れ整備	B
		地域生活	医療的ケアのある方が利用できるヘルパーやレスパイトの実現に向けて	C
			医療的ケアのある方が利用できるケアホーム利用の実現に向けて	C
その他	長期計画	地域づくり	居住地域を意識したネットワークつくり	－
		相談支援の展開	つどいの家利用者のサービス利用計画作成の進め方	－
			委託相談支援事業のあり方	－

～評価分類集計～

分類	評価	内　　容
A	1	目標を達成し、課題解決が図れた。
B	8	目標達成に向けて計画通り進展しており、現在もなお取り組みを続けている。
C	5	目標達成に向けて取り組んでいるが、計画通り進展していない。 （計画の変更や方法の見直しを要する）
D	0	達成すべき目標や課題内容について見直しを必要とする。

E	0	その他

７．人材確保・養成及び労働環境改善等に向けた取り組み（内部研修外）

(1)　新職員の確保に向けた取り組み

・就職説明会（法人独自開催）／10/17、11/21 開催、計５名参加

・学内説明会の実施

・職員としての仕事のやりがいや意義などを広く紹介するためのプロモーションビデオを作成

・ハローワーク、県福祉人材センター主催就職説明会への参加：2/4

・その他、求人広告やインターネット媒体などの活用、施設見学会の実施（随時）

(2)　相談支援、サービス管理責任者等研修への職員派遣

・相談支援従事者初任者研修　２名

・相談支援従事者現任研修　　１名

・サービス管理責任者研修　　３名

(3)　資格取得奨励助成事業(法人独自)の創設

・介護職員初任者研修　　２名

・実務者養成研修　　１名

・社会福祉法人会計簿記(上級)　２名

(4)　職員労働環境改善等に向けた取り組み

・処遇改善の一環と最低賃金改定を踏まえ、非常勤職員の賃金を一律ベースアップしました。

※平成 28 年 1 月 1 日施行

・また、職員全体の労務管理の徹底と明確化、法改正等を踏まえた短時間労働者の多様な働き方等に対応することなどを目的に、就業規則の抜本的な見直しを図りました。

※平成 28 年 4 月 1 日施行

・上記と併せ、平成 27 年 4 月 1 日付で顧問契約した社会保険労務士との打ち合わせを年間 16 回(その他、電子メール等で随時)実施し、労務の適正管理に努めました。

８．マイナンバー制度への対応とその取り組み

平成 28 年 1 月より開始されたマイナンバー制度に対して、法人として特定個人情報等の適正管理を図ることを目的に、以下の取り組みを行いました。

(1) 諸規程の整備

・個人情報・特定個人情報保護規程および個人情報・特定個人情報安全管理細則の創設

・特定個人情報等の適正な取扱いに関する基本方針

及びマイナンバーの取扱いに関する運用方針の制定

・職員就業規則の一部改正（利用目的等規定）

(2) 組織体制確立

個人情報及び特定個人情報を安全かつ適正に取り扱うため、新たに次の担当を定め、組織的に管理する体制を講じました。

①個人情報保護統括責任者

②個人情報保護部門管理者（既）

③個人番号事務取扱責任者

④個人番号事務取扱担当者

(3) 安全管理措置

・給与計算システムの制度対応改修(バージョンアップ)と不正アクセス等の防止を図るための専用パソコン等の導入を行いました。

・特定個人情報等のデータを集積するシステムや書類等の情報喪失、盗難防止を図るため、サーバー移設や専用キャビネットを設置しました。

・外部からの覗き見防止措置や作業エリアへの立ち入りを制限するなどの対応を図りました。

(4) 周知・説明等

・担当職員への教育研修の実施

・事業所単位による制度と取扱方針などの説明会実施

9．広報・啓発活動

(1) 法人会報発行

会報「つどい」第 20 号　　平成 27 年 8 月 31 日発行（発行部数：1,600 部）

同　　第 21 号　　平成 28 年 3 月 31 日発行（発行部数：1,500 部）

(2) ホームページによる情報開示

財務諸表等のインターネット公開義務化に基づき、事業報告、財務諸表、法人現況報告書等の情報をホームページ上で開示しました。

(3) 法人主催の講演会開催（法人後援会共催事業）

一昨年の「何を怖れる」上映会に引き続き、しょうがいのある方の人権と地域生活を保障する法人の基本理念に従い、平成 27 年度は、上野千鶴子さんを講師に迎え、本人主体の支援について社会の人々への理解促進と共通の課題(人権等)を共有しあいながら、「当事者主権」とは何かを考える機会をつくることを目的に講演会を開催しました。

講演内容　上野千鶴子さん講演会

テ ー マ　当事者主権　～私のことは私が決める～

日　　時　平成 27 年 9 月 4 日（金）

場　　所　宮城野区文化センター　パトナホール（コンサートホール）

入場者数　２９９名

10．その他事務手続きなど

◆登記関係

・資産総額変更登記（5/27）

◆行政手続き

・社会福祉法人現況報告書提出/仙台市（6/15）

・公益法人等における収支計算書提出/税務署（7/6）

・労基署是正勧告、指導に対する報告書提出（5/15、29、6/25）

◆仙台市長への要望書提出（平成 27 年 9 月 3 日付提出）

（法人単独提出）

①しょうがいの重い方々が、豊かでいきいきと地域生活

◆入札関係事務

(1) グループホームにおけるスプリンクラー設備整備

・制限付き一般競争入札　1 社応札

※広告日：平成 27 年 10 月 13 日

※開札日：平成 27 年 11 月 16 日

※落札業者：東北ノーミ㈱

※落札金額：19,100,000 円（落札率：95.5%）

※契約締結日：平成 27 年 11 月 26 日

(2) コペル高速カラープリンター賃貸借

・指名競争入札　2 社応札

※指名通知：平成 27 年 6 月 2 日

※開札日：平成 27 年 6 月 11 日

を営むことができるためのグループホームの普及と整備について
②仙台市障害者家族支援等推進事業（レスパイト事業）における自動火災報知設備設置義務化における対応について
③仙台市障害者相談支援事業所における委託費及び人員配置の是正について
④区自立支援協議会における仙台市障害者相談支援事業の役割及び今後の展望について

（仙台市知的障害者関係団体連絡協議会経由）7/15 提出

※落札業者：㈱仙台大気堂
※落札金額：2,450,000 円（落札率：98.0%）

平成27年度寄附金収入内訳

■　法人本部　　（単位；円）

No	団体名	金額	備考
1	仙台つどいの家保護者会　様	200,000	
2	アロマサークルちゅら　様	13,002	
3	つどいの家職員会　様	100,000	
4	つどいの家連合保護者会　様	689,600	
5	NPO法人朋広島沙羅の森　様	55,000	
6	チーム広瀬　様	110,000	
7	(一財)白石庵　敬神会　様	200,000	
8	仙台キワニス会　様	20,000	
9	瀧澤寺　様	30,000	
10	(社)訪問の家　様	50,000	
11	寺島歯科医院　様	5,000	
12	(社)聖坂学園　オリブ工房　様	42,000	
13	つどいの家後援会　様	544,317	
14	つどいの家後援会　様	4,120,683	
15	コペル職員有志　様	33,650	
16	美容室ファシル　様	10,000	
17	つどいの家・コペル保護者会　様	277,535	
18	(社)海風会　様	16,507	
小計		6,517,294	
No	個人名	金額	備考
1	佐藤章一　様	3,000	
2	村上秀一　様	13,490	
3	名越しおり　様	5,000	
4	佐々木敏明　様	10,000	
5	下郡山和子　様	640,000	
6	河東田博　様	30,000	
7	小幡悦子　様	5,000	
8	矢目誠志　様	3,000	
9	佐藤和賀子　様	10,000	
10	日浦学　様	100,000	
11	清水夏江　様	100,000	
12	山本宏　様	80,000	
13	川名はつ子　様	300,000	
14	稲木俊夫　様	10,000	
15	可野裕一　様（職員）	44,000	
16	下郡山徹一　様	6,000	
17	久保野恵美子　様	9,000	
18	阿部達　様	6,000	
19	三浦俊一　様	6,000	
20	東弘道　様	2,000	
小計		1,382,490	
平成２７年度合計		7,899,784	

■　仙台つどいの家　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	仙台つどいの家保護者会　様	1,649,200	送迎協力金
2	仙台つどいの家職員の会　様	119,831	
3	奥野和弘　様	50,000	
4	斎藤司　様（利用者）	6,277	
5	坂田絢子　様	10,000	
6	阿部明日　様（利用者）	2,882	
7	山口収　様（職員）	3,352	
8	東弘道　様（保護者）	100,000	
9	石森京子　様	2,000	
平成２７年度合計		1,943,542	

■　つどいの家・コペル　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	赤井澤功子　様（利用者）	50,000	
2	石道敦　様（職員）	32,320	
3	佐藤みい子　様	20,000	
4	栗山ふさ江　様	10,000	
5	中田貴子　様	7,244	
6	安藤一真　様（利用者）	3,000	
7	コペル職員有志　様	1,241	
8	愛光園さんさんグループ　様	8,209	
9	瀬野尾順子　様（利用者）	30,000	
10	つどいの家・コペル保護者会　様	50,000	
11	コペル保護者会　様	3,208,200	送迎協力金
平成２７年度合計		3,420,214	

■　つどいの家・アプリ　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	アプリ保護者会　様	3,969,720	送迎協力金
2	伊藤慶子　様	50,000	
平成２７年度合計		4,019,720	

■　八木山つどいの家　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	八木山つどいの家保護者会　様	524,800	送迎協力金
2	聖ルカ幼稚園父母の会	5,000	
3	八木山つどいの家保護者会　様	4,000	
4	仙台建設業協会　様	50,000	
5	高橋和　様（保護者）	100,000	
6	高橋和　様（保護者）	50,000	車両寄贈　市場価格調査により算定
平成２７年度合計		733,800	

■　ぴぼっと南光台　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	福地慎治　様（職員）	228,000	
2	高杉和豊　様（職員）	13,400	
3	匿名希望　様	20,000	
4	仙台建設業協会　様	50,000	
平成２７年度合計		311,400	

■ぴぼっと支倉　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	永野美代子　様	10,000	
2	高橋和　様（保護者）	100,000	
平成２７年度合計		110,000	

■ピボット若林　　（単位；円）

No	個人・団体名	金額	備考
1	佐藤春奈　様（職員）	54,345	
平成２７年度合計		54,345	

仙台つどいの家　事業報告

Ａ　日中活動支援部門事業報告

・生活介護事業所　　定員３０名　　仙台つどいの家
・特例生活介護事業所　　定員１０名　　さんしょ
} 一体的運営

平成２７年度の仙台つどいの家は、これまでに引き続きコミュニティワークに力を入れて取り組んできた。移転時から少しずつ地域のみなさんとの関係づくりを進めてくる中で、ガレージセールやバザー、コンサートなどはすっかり定着し、地域の常連さんが参加してくれるようになってきている。今年度はコンサートのうち一回を、ビアガーデンも兼ねたハワイアンの夕べとして開催したところ、ご近所の方が子供連れで多数参加してくれるなど、大いに盛り上がった。夏まつりの開催などを通して、今後も継続して地域住民との交流を楽しんでいく。また、今年度は宮城野区自立支援協議会のエリア会において、県障害者福祉センターおよび幸町市民センターと仙台つどいの家の連携の事例を報告する場を与えられた。引き続き行ったり来たりの活動を通して、利用者と職員がともに地域の中につながりや役割を持つことができる仕掛けをしていく。

もう一点、力を入れてきたのはケースワーク。今年度もグループの枠にとらわれない柔軟な活動や、ケース会議における一人ひとりの再確認を進めてきたつもりである。そういった取り組みの中で、職員内部研修用にすてーじの再開に向けた動きをわずかながら行うことができた。また、震災後の出席困難な利用者への取り組みが徐々に花開いた年でもあった。担当職員による継続的な働きかけと相談支援事業ゆあらいふの協力・連携により、年度中盤から後半にかけて出席できるようになった方が複数名出てきており、この取り組みを今後も継続していく。一方、加齢に伴う身体状況の変化についても実感させられている。白内障を患ったり、骨密度の低下により骨折のリスクが高くなっている利用者も見受けられるため、健康や安全に対する意識を職員で共有していく必要も感じている。

○２７年度重点課題と具体的取り組み（特例生活介護サービス　さんしょも一体的運営）

分類	重点課題	具体的取り組み	評価
日中活動支援	・丁寧な意思確認による個別支援計画の策定・実施 ・活動の幅を広げる ・出席困難・長期欠席利用者への対応	・日々の意思確認・振返りの徹底 ・グループ間の連携強化 ・出席困難な利用者・家族への個別アプローチ強化	・グループにとらわれない柔軟な活動の展開を意識して取り組むことができた。 ・ゆあらいふとの協働で、昨年度よりも出席困難な方へのアプローチは進めることができた。
家族との連携	・家族・施設がともに支援について考えられる関係性	・施設懇談会、保護者会との共同行事の開催 ・保護者会行事への職員参加	・合同行事については例年程度に留まった。 ・施設懇談会はピアカウンセリングの場として活用している保護者もおられた。 ・おやじの会を開催し、父親との交流が進んだ。
地域への働きかけ	・仙台つどいの家の取り組みをより多くの方に知っていただく ・地域の一員としての役割	・町内会行事への参加 ・地域の学校や市民センター等を活用し、交流を図る ・とんがらし通信の発行・配布を通して地域啓発する ・地域店舗への募金箱依頼	・とんがらし通信を丁寧に発行することで、近隣・遠方問わず、応援者が増えてきている。 ・活動で利用者本人が募金箱依頼などに取り組め、地域の理解が進んだ。

コミュニケーション支援	・意思が十分に読み取れていない場合がある ・コミュニケーションツールの活用が不十分	・支援者間でエピソードを共有し、行為の理由や意味、背後にあるものを見極める ・職員勉強会により、コミュニケーションツールの活用方法を工夫する	・情報共有のため、打ち合わせの機会を密にとるよう心掛けた。 ・自由参加のコミュニケーションツール活用勉強会が十分に機能しなかった。
はたらく	・それぞれの「はたらく」を、様々な体験の中で考える	・「めいぷる」でのパン・菓子製造・販売・配達を通して、はたらくことを考える ・缶リサイクルや清掃だけでなく、地域啓発などそれぞれの役割を見つける	・めいぷるでは製造・販売は順調に行えたが、近隣のお得意さんの開拓が進められなかった。 ・イエローレシートキャンペーンにコンスタントに参加し、地域の方への啓発を進めた。
健康	・一人ひとりに応じた健康への支援が必要	・健康診断・健康相談による嘱託医や看護師の健康チェック ・通院同行による主治医との連携 ・個々の状態に合わせた運動の機会を持つ ・グループホームとの情報共有	・看護師の指導に基づき、支援員による健康チェックを定期的に行った。 ・グループホームとの連携には課題が残った。
医療的ケア	・生活行為として医療的ケアの一般化が必要	・内部研修を通して、所属グループに関わらず医療的ケアを身近なものに感じられるようにする ・医療的ケアのできる職員を増やすため、３号研修の受講を進める ・重症心身障害者の地域生活を進め支援する会との連携	・医療的ケアの意識をグループまんべんなく醸成するには至らなかった。 ・重症心身障がい者の地域生活を進め支援する会との連携は意識して取り組め、保護者の参加も多かった。
	・医療的ケアのある方がグループホームで生活できる環境整備が必要	・アーチルと協働し、グループホーム入居に向けた取り組みを継続する ・医療的ケアの必要な方のグループホーム入居へのプロセスを整理する	・グループホーム整備に関する動きは進められていない。 ・ホーム整備の手順等について、アーチルと情報交換することができている。

◆事業実施状況

〈　諸会議　〉

会議名	頻度	内　　容
職員会議	月１回	施設運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
ケース会議	月１回	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など
チーフ会議	月２回	法人・施設運営の方向性。事業報告、課題検討など
グループ会議	月１回	各会議報告、活動調整、グループ内課題検討など
送迎調整会議	年４回	送迎コース確認、報告・意見交換など
施設懇談会（全体）	月１回	活動報告、日程確認、保護者会報告・意見交換など

〈　行事等　〉

ガレージセール　　年５回
バザー　　１０月１０日
成人を祝う会　　１月２２日
コンサート　　８月１日　１２月５日
親子クッキング　　７月４日　１２月１２日

〈　利用者出欠状況　〉　　（Ｈ２７年４月１日～Ｈ２８年３月３１日）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数		21	19	22	22	20	18	22	20	20	20	21	23	248
仙台	出席者数	597	538	645	615	534	505	612	588	561	550	594	686	7,025
	出席率	83.4%	89.2%	83.8%	79.9%	78.9%	80.2%	82.9%	84.7%	84.1%	78.6%	80.8%	85.2%	82.6%
さんしょ	出席者数	106	93	111	100	93	90	108	79	74	79	85	108	1,126
	出席率	91.4%	93.0%	93.3%	85.5%	91.2%	90.9%	90.8%	79.0%	69.2%	71.2%	74.6%	85.0%	84.6%
全体	出席者数	703	631	756	715	627	595	720	667	635	629	679	794	8,151
	出席率	87.4%	91.1%	88.6%	82.7%	85.1%	85.6%	86.9%	82.4%	76.7%	74.9%	77.7%	85.1%	83.6%

〈　見学・訪問者一覧表　〉　　（H27.4.1～H28.3.31）

	一般来訪者	他施設等利用者及び保護者	他施設等職員	一般見学者	一般ボランティア	実習打合せ	入職等実習者	支援学校等実習	関係機関	業者等	法人内他事業所職員	合計
4月	23	1	3	3	45	1	17	0	10	61	12	176
5月	16	11	1	2	47	5	9	0	16	52	21	180
6月	27	4	4	5	51	7	12	8	10	63	19	246
7月	16	20	2	4	52	10	4	13	14	65	26	226
8月	19	17	3	6	48	9	6	4	21	57	26	216
9月	17	0	7	4	35	9	3	16	12	55	28	186
10月	26	0	7	15	50	9	6	4	6	62	22	207
11月	25	9	0	23	39	2	3	5	4	59	37	206
12月	19	0	0	5	25	0	5	0	7	54	31	146
1月	31	8	0	3	26	0	1	0	10	54	36	169
2月	42	3	0	14	25	2	6	0	1	64	27	184
3月	22	0	2	6	31	0	29	0	2	58	35	185
合計	283	73	65	90	474	54	101	50	113	704	320	2,327

つどいの家・コペル　事業報告

□障害福祉サービス事業（多機能型①：生活介護＋生活介護）
□障害福祉サービス事業（多機能型②：生活介護＋児童発達支援

○総括

平成２７年度のコペルは新規利用者を受け入れず、登録利用者５６名でスタートした。日々の利用者は４０名程となるがその半数弱が車いす利用の方となり、スペース的に余裕があるとは言い難く、浴室の活動部屋への切替え等大規模リフォームも視野に入れた検討が必要となっている。

支援体制は、今後のグループホーム等の展開を見据えた厚い体制としてきたが、ＯＪＴ等育成の視点が追い付かなかった。活動においては、利用者の思いを大切に主体性と人権を尊重しながら丁寧に向き合い、本人の意向を確認しながら支援を進めらるよう意識してきた。利用者本人が見通しを持って主体的に関われる場の提供を心がけると共に、やりがいや達成感を得られる機会も大切に取り組んできた。自己を表現できる機会が広がるよう、積極的に外へも飛び出した。これまであまり行えなかった利用者の居住地域を意識した活動も、少しずつ取り組むことができた。利用者本人が自分の地域を知り、地域住民の一人として、身近に顔の見える関係性を増やせる機会としながら、生活圏域でのしょうがい理解を広める機会とすることもできた。平成２８年度は沖野地区に新グループホームを創設することもあり、あらためてコペルの身近な地域からしょうがい理解を広めていけるよう、サロン活動やコンサートの開催を計画している。利用者と共に、しょうがいのある人の人権が守られる社会となるよう、発信すること、伝えることに力を入れた事業展開を考えていきたい。

利用者状況においては、ここ数年出席率の低迷が大きな課題となっている。主な要因として、加齢に伴う身体機能や免疫力の低下、年相応の生活習慣病等健康面におけるリスクの高まりがあげられ、そうした状況のなか２名の方が亡くなられた。あらためて一日一日を大切にしながら、利用者の行動面や表情等に現われる小さな変化を捉え、早い段階から家族や主治医と確認し合えるよう向き合っていきたい。

新体系移行４年目となる「オリザ」では、支援員による喀痰行為を継続的に進めながら健康面へのアプローチと関係性づくりを大切に進めてきた。とは言え、オリザの利用者は一度バランスを崩すと長期入院や自宅療養となる方が多く、現給付費制度での安定的な支援体制と専門職の継続的配置が困難な状況が続いている。その為、激変緩和措置（平成２６年度までの有期限補助）に代わる補助制度の創出を様々な形で訴え続けてきたが、あらたな補助制度となる『要医療的ケア利用者受入事業運営費補助金』をやっと創設してもらうことができた。仙台市には感謝すると共に、この補助制度が恒久化されるよう今後も継続して働き掛けていきたい。

○重点課題と具体的取組

分類	重点課題	具体的取組	評価
本人主体の個別計画の推進	・利用者本人の希望や思いをかなえる支援	・一人ひとりと丁寧に向き合い、本人の思いや気持ちを確認する。 ・本人が見通しを持って主体的に関われるよう提示方法を工夫する。 ・本人の体験を積み重ねていくなかで思いの確認を図る。 ・生活全般を見据えた計画となるよう相談支援事業や関係機関（区役所、南部アーチル等）と連携を強化する。	・本人の主体的な活動の展開に近づけた。 ・職員の思い込みに気付けた。 ・自己実現の機会を増やせた。 ・チームアプローチの確立までには至らなかった。
コミュニケーション支援	・利用者の意思表示の読み取りが難しい。	・意思確認のツールとして、写真カードやＶＯＣＡ、アイパッド等を活用。 ・同ツールを持出し、他者とのコミ	・意思確認ツールの活用の機会が少なかった。 ・手添えでの意思表出に気付けた。

コミュニケーション支援	・利用者の意思表示の読み取りが難しい。	ュニケーションツールとして活用。 ・外部研修への参加。 ・専門職や専門機関（南部アーチル、自閉症相談センター等）との連携。 ・仲間同士の話合い。 ・発達障害者への知識を深める研修を進め、専門性を高める。	・自分の思いが伝わったことで、思いを表出する場面が増えた。 ・アーチルとの連携による利用者支援が見えてきた。 ・本人が穏やかに過ごせる日が増えた。
家族との連携	・本人の支援に不可欠な家族との関わり（信頼関係）	・日頃から本人の支援に必要な情報の共有を心掛ける。 ・活動における本人の様子を写真や映像で伝える。 ・個別面談の実施（年２回）。 ・保護者懇談会の開催を工夫する。 ・保護者会との連携（バザー等の共同開催、行政への要望等）。	・家族が本人の視点で考えられるようになった。 ・保護者会の輪番制が定着してきた。 ・保護者同士の繋がりの薄さや主体的な保護者会活動にはまだまだ。
地域生活支援	・居住する地域の中で社会資源と繋がっていない方が多い ・家族が本人の支援を丸抱えしている	・日中活動支援では実現できないニーズを知る。 ・そのための地域資源、利用者のコペル以外での生活状況（家族の状況等）を知る。 ・ケアマネジメントの視点を持ち、ニーズを社会資源につなげる。 ・相談支援事業所（くれよん等）と連携する。	・移動支援に興味を持ったり、利用を考え始めたりする人が増えた。 ・相談支援との連携の機会が増えたことで、視野が広がった。
ソーシャルワーク	・しょうがいがあっても住みやすい街に	・地域へ出る、街へ出る、公共交通機関を当たり前に使う。 ・外へ出ることで直面する使い辛さや周りの無理解、無配慮等について声をあげる。 ・地域学校との交流会を継続する。	・バス利用の際、市民の温かさに触れることができた。 ・出向くことで誤解が解消された。 ・子どもを通して親の理解も進んだ。
居住支援	・暮らしに豊かさと広がりが持てるように	・ひこうき雲、オキーノとの連携（バックアップ）。 ・グループホームとの連絡会。 ・保護者懇談会での定期的な話合。	・グループホームとの連携に課題が残った。 ・職員研修を通して気付きをもらえた。 ・新 GH の設置が決まった。
はたらくこと	・社会参加する ・やりがい、いきがいを感じる	・コペル内における生産活動の継続。 ・地域内のイベントや販売会へ積極的に参加する。 ・しょうがい状況やグループの別によらない“はたらく”活動への参加を進める。 ・補助具の工夫や環境の整理。 ・パン工房を切り口とした就労へのアプローチを考える。	・“はたらく”ことへの関わりが広がった。 ・一人ひとりの役割が見えてきた。 ・あらたな地域とのつながりができた。 ・あらたな作業活動を生み出せなかった。
医療的ケア	・生活介護にも要医療的ケアの必要な人が増えてきている ・医療的ケアの一般化	・支援員の医療的ケア学習。 ・主治医との十分な連携。 ・田中先生によるレクチャー。 ・支援員による医療的ケアの実施。	・医療的ケアの必要な人を支える人材が増えた。 ・利用者のことを深く知

		・緊急対応含めたリスク管理の整備、安全委員会の実施。 ・仙台市への要望。	ることが出来た。 ・本人の活動が広がった。 ・要医療的ケア利用者受入事業運営費補助金を創設してもらえた。
障害者差別禁止条例策定へのアプローチ	・無配慮、無理解なことが多い ・生活のし辛さ	・ワークショップ「ココロンカフェ」への参加を進める。 ・利用者自身と当事者団体との繋がりを考える。 ・外部研修、内部研修の活用。 ・本人、保護者との意見交換。	・本人が直接行政へ声を伝えられたことで意識が高まった。 ・当事者団体との関わりを持つことはできなかった。

○事業実態状況

〈　諸会議　〉

会議名	頻度	内　　容
職員会議	月１回	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
ケース会議（全体・各）	月１回	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など
チーフ会議	月１回	法人・事業所運営の方向性、事業報告、課題検討など
グループ会議	月１回	各会議・事業報告、施設の共通課題検討、意見交換など
月案会議	月２回	活動・体制調整、車両、共有備品等使用調整など
送迎連絡会	年４回	送迎コース確認、送迎対応周知、意見交換など
喀痰行為安全委員会	月１回	支援員実地研修進捗確認、研修後の評価確認、課題検討など
販売促進会議	月１回	パン工房、喫茶、作業活動の販売促進に係わる課題検討など
送迎担当者連絡会	年４回	送迎に関する報告・意見召集・確認など
若福コペル連絡会	月１回	若林福祉センターとの情報交換、共有など
太福コペル連絡会	年２回	太白福祉センターとの情報交換、共有など
保護者懇談会（全体・各）	月１回	活動報告、日程確認、保護者会報告・意見交換など

〈　行事関係　〉

・第一町内会納涼夏祭り　・コペルでバザーる　・還暦を祝う会　・新成人を祝う会
・沖野東小学校交流会　・沖野中学校交流会　・アロマサロン
・沖野市民センター祭り　・六郷市民センター祭り　・若林市民センター祭り　・若林区民ふるさと祭り
・福祉プラザ販売会　・若林区役所等販売会　・若林区及び宮城野区文化センター販売会
・教会バザー等地域イベント販売会

〈　利用者状況　〉

❑利用者居住地

	若林区	宮城野区	太白区	青葉区	泉区	仙台市外	合計
ひろば	12	2	6	0	0	0	20
オリザ	2	2	3	0	0	0	7
みらい	19	4	5	1	0	0	29
合計	33	8	14	1	0	0	56

❑年齢区分

	～19	20～	30～	40～	50～	60～	合計
ひろば	0	10	8	2	1	1	22
オリザ	0	3	3	0	1	0	7
みらい	0	2	9	5	7	4	27
合計	0	15	20	7	9	5	56

❑障害程度区分別

	区分1・未判定	区分2	区分３	区分４	区分5	区分６	合計
ひろば	0	0	3	7	7	3	20
オリザ	0	0	0	0	0	7	7
みらい	0	1	1	3	5	19	29
合計	0	1	4	10	12	29	56

❑合併症

	自閉症・自閉的傾向	てんかん	肢体不自由	視覚障害	聴覚障害	精神障害
ひろば	5	10	5	0	0	0
オリザ	0	7	7	2	0	0
みらい	0	18	21	1	0	0
合計	5	35	33	3	0	0

❑手帳保持状況

	療育手帳		身障手帳		精神手帳	
区分	A	B	1～2級	3～6級	1級	2～3級
ひろば	20	1	1	4	0	0
オリザ	7	0	7	0	0	0
みらい	29	0	17	4	0	0
合計	56	1	25	8	0	0

＜　見学・訪問者一覧表　＞

	一般来訪者	業者等	関係機関	法人内職員	一般見学者	支援学校見学者	他団体・事業所見学者	実習打合せ	支援学校等実習者	学生等実習者	職員等実習者	ボランティア	合計
4月	1	30	11	12	0	0	0	0	0	0	0	8	62
5月	3	36	15	8	0	2	0	0	0	0	0	16	80
6月	6	38	11	8	2	2	0	6	0	0	6	24	103
7月	81	55	17	13	0	1	4	4	2	10	5	21	213
8月	6	32	6	10	2	4	6	3	2	7	0	13	91
9月	30	38	15	8	1	1	0	0	0	3	7	12	115
10月	2	40	5	8	8	3	3	0	0	0	11	15	95
11月	78	39	12	5	2	2	1	3	0	12	6	13	173
12月	24	53	11	16	0	1	3	1	0	0	4	9	122
1月	2	55	2	11	0	2	3	0	0	0	0	11	86
2月	12	51	11	15	4	1	0	0	0	0	21	17	132
3月	52	48	8	13	0	10	2	0	2	0	0	20	155
合計	**297**	**515**	**124**	**127**	**19**	**29**	**22**	**17**	**6**	**32**	**60**	**179**	**1427**

＜　研修関係　＞

施設職員中堅者研修、全国施設長会議、クレーム対応研修、リスクマネジメント研修、心の健康セミナー、メンタルケア研修、権利条約研修、性的問題行動勉強会、サービス管理責任者講習、喀痰制度３号研修、虐待防止セミナー、医療的ケア研修、施設視察研修（朋、ゆう）、プレゼンセミナー、摂食嚥下セミナー、日中活動支援施設職員研修会、ソーシャルワークセミナー、自閉症セミナー、安全管理者研修、相談支援従事者初任者研修、施設職員基礎研修、施設職員新任者研修、てんかんセミナー、療育懇談会、ＢＣＰセミナー、地域支援セミナー、食品衛生講習、コンプライアンスセミナー、さをり織講習、販売スキルセミナー、婦人防火クラブ研修、作業所見学ツアー、リーの会研修、若林ネットワーク会議、日中活動支援部会、知的障害者福祉協会・リーの会施設間交換研修

つどいの家・アプリ　事業報告

〇はじめに

アプリ 5 年目は、課題として掲げた支援力アップのために、内部研修の開催や外部への積極的な研修会の参加に取り組み、職員個々の自己啓発を重要視した。また、利用者主体の支援のため、館内の環境整備に取り組んだ。特に自閉的傾向が強い利用者にとって、過ごしやすい環境整備に取り組めたことは大きな一歩である。また、利用者の将来構想も含めて、アプリから八木山つどいの家に 2 名異動する形をとった。利用者間の相性や関係性を踏まえて、家族・各事業所間で協議し移行に至った。新規受け入れについては、ミントに医療的ケアが必要な利用者を 1 名迎えている。今後も、看護師の配置や職員のスキルアップを目指しながら、支援の向上に取り組んでいきたい。

今年度は、新規受け入れを行う予定はないが、地域のニーズを汲み取る必要がある。利用者の支援のみならず、親の視野を育む視点を持ちながら、28 年度も積極的に地域との関わりを持ちたい。

〇日中活動支援について

日中活動の中で、各職員が何を取り組むべきなのか考える年であった。利用者の自己実現、本人主体の支援、地域に働きかけるなどそれぞれの職員が目標を持って取り組めたと感じる。特に、地域とトラブルについては、その場の対応のみならず、その後の対応をきちんと職員が、地域に出向き取り組めたことは大きなことでもあり、個々の取り組みではなく、チームアプローチとして取り組めたことも大きい。また、自閉症等の対応のみならず、緊急回避を目的とした医療的ケアの実施については、専門性もしかり利用者、保護者との関係性もしっかり気づきあげたことも大きなポイントであった。

〇家族との連携（保護者会の取組等）

アプリ保護者会との連携については、今年度職員の怪我により、日中支援（特に、食事支援）に協力をいただいた。食事の時間に保護者に入ってもらうことで、食形態の見直しや他利用者のことなど理解してもらえる機会にもなった。当初、職員は保護者が活動に入ることに否定的だったが、実際に取り組んでみて、良かったという声が多かった。また、アプリの懇談会に関しては、毎回 30 名前後の参加率となっている。事業所や法人内のことについて、可視化しながら課題を解決していけるように、今後とも話し合いの場を設けていきたい。

〇将来に向けた取り組み

「サービスがあって当たり前」「通所は何でもしてくれる」「家族はまだ困っていないからサービスは使わない」という旧態依然とした考えが保護者の中にいまだ多いように感じる。他法人や他事業所の見学を設ける機会を作りながら、保護者が率先して、活動できるように取り組んでいきたい。

○２７年度利用者状況　　※下記表の(　　)内はミントの数

・生活介護事業　30名定員(登録数　３６名)　　H28.3.31 現在の数。

・生活介護事業・児童発達(ミント)　日々５名定員　　登録７名　　計　４３名

(年齢別)　　◆居住地↓

年齢	~17	18~19	20~29	30~39	40~49	50~	計	太白区	他区
男性	0	0	13 (内 2)	4	5 (内 1)	0	22	21 (内 2)	1
女性	0	0	14 (内 4)	1	5	1	21	19 (内 4)	2
計	0	0	27	5	10	1	43	40	3

(障害程度区分)　　※平均程度区分　5.3

区分	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
男性			1	4	6	11 (内 3)	22
女性			0	4	1	16 (内 4)	21
計			1	8	7	27	43

(障害状況・合併症等)

しょうがい	知的	身体	精神	自閉症	てんかん
男性	21 (内 3)	11 (内 3)	―	6	14 (内 3)
女性	21 (内 4)	13 (内 4)	―	2	11 (内 4)
計	42	24	―	8	25

(週間利用状況) ※ミント含む

曜日	月	火	水	木	金	計
男性	20（２）	19（２）	21（２）	19（２）	19（２）	98
女性	18（３）	20（３）	18（２）	20（３）	19（３）	95
計	38	39	39	39	38	193

○２７年度事業実施状況

(取り組んだ行事等)

行事項目	内　　容
地域交流行事	山田町内夏祭り８月（(株) マルタマさんが出店協力)、ポッケコミュニティ祭り９月、アプリバザーっす 10 月、山田ふれあい祭り１１月
社会参加行事	もりのみやこふれあいコンサート 12 月 宮教大ゲストスピーカー利用者２名 10 月、 黄色いレシートキャンペーン参加
販売促進行事	各区販売会、バザーでの販売会

その他の行事	クリスマス会 12 月、成人を祝う会１月、防災訓練・無線機練習、つどすぽ１１月、
健康関連	健康診断４月、歯科相談７月、嘱託医による健康相談７月、嘱託医職員研修会２月、インフルエンザ予防接種指導
防災関連	避難訓練(部分、総合)五回、救急救命講習開催、法人防災訓練参加 10 月、引き渡し訓練６月・11 月、毎月の無線訓練と設備点検の実施

（諸会議）

会議名	内　　容	回数
職員会議	月１回開催（4 月/2 回)。当月の報告、次月の予定・協議事項の確認等	13 回
ケース会議	月一回開催。(4･10.2 月 2 回開催）新規利用者ケース確認、個別支援計画のまとめ・評価。年度末評価を行い次年度の個別支援計画を立案。内部研修。講演会の開催。	15 回
チーフ会議	月２回（臨時あり)。アプリ全体に関わる協議事項について話し合う。	24 回
月案調整会議	グループ間の活動を調整し体制や使用物、交流などを話し合う。	12 回
販促会議	はたらくことを推進・検討するために整理する１年であった。	３回
各グループ会議	活動計画やケースワークを細かく話し合いながら進めている。	12 回
その他	後援会役員会、送迎担当連絡会、リーの会、食事サービス担当者会議年２回、なごやかネット、法人各種委員会	年間計画通り

（研修等）　　※その他法人企画研修や権利擁護関係、自主研修等研修あり。

・知的障がい福祉協会定期総会 4/23　・新任職員研修 6/23、24・縄文の森運営会議・全国知的障がい者関係施設長会議 6/29、30　・甲種防火管理新規講習　・仙台市施策推進協議会　・西多賀支援学校進路支援協議会 7/28　・行政懇談会 7/30　障害者虐待防止に係る研修 7/31　・てんかん講座 8/4、5　・アーチル成人施設中堅者研修会　・クレーム対応研修 8/20　・自閉症フェスティバル 8/22、23　BCP 研修 8/25　・POP 作成セミナー9/1　・アーチル研修医療的ケア 9/3　・上野千鶴子講演会 9/4　・苦情に関する研修会 9/8　・エコー療育園見学会 9/9　・日中活動支援部会施設長研修会 9/10、11　・リーの会視察研修 9/17、18　・安全運転者講習会 9/16　・ひかり苑公開講座 9/20　・白石陽光園施設見学 9/25　・食品表示法事業所向け説明会 9/27　・リーの会保護者との会合 9/28　・全国知的障害福祉関係職員研究大会 10/14､15　・市団協視察研修 10/12、13　・全国日中活動支援部会職員大会 10/12、13　・がん対策推進企業アクション 11/18　・摂食サポートセミナー11/18　・県福祉協会障害者施設支援研究会 12/9　・発達障害者の地域を支援し考える 1/16　・重症心身障害児の生活支援研修 1/30

(渉外、その他)

・辞令交付、全体職員会議 4/1 ・後援会総会　4/7 ・リーの会総会 5/11 ・産業医訪問巡回 5/20 ・エコー療育園見学 6/4 ・保護者会窓拭き活動 6/11 ・介護等体験　宮城教育大学生 6/22～ ・就職説明会　尚絅大学 6/23 ・就職説明会　仙台医療専門学校 6/24 ・船岡支援実習生 6/25 ・名取支援学校 3 年生実習 7/15・16 ・介護等体験　宮城教育大学 7/20～ ・市行政懇談会 7/30 ・学生ボランティア　浦和大学 8/7 ・鶴谷支援校先生見学 8/20 ・掘り出し物市 8/30 ・AED 講習会 9/24 ・小松島支援学校 PTA 見学 9/29	・法人防災訓練 10/1 ・宮城教育大学ゲストスピーカー10/20 ・介護等体験　宮城教育大学 11/10～ ・医療的ケア家族懇談会 11/20 ・視覚支援学校見学 12/4 ・もりのみやこふれあいコンサート 12/8 ・イオンサンタ交流 12/17 ・NHK やっぺい体操撮影 1/13 ・自立支援協議会実務者ネットワーク 2/5 ・あさいな学園見学 2/19 ・光明支援学校見学 2/25 ・消防署管内視察 2/29 ・嘱託医田中先生巡回 3/1 ・新規利用者オリエンテーション 3/15 ・新職員オリエンテーション 3/23

八木山つどいの家　事業報告

仙台市障害者小規模地域活動センター　（市町村事業）

○　総括

H27 年度は 4 月に支援学校卒利用者 2 名が加わり計 10 名となる。一方 70 代利用者 1 名の今後を検討する時期となった。重点課題は生活介護事業への移行であり、八木山推進プロジェクト委員会を定例化し協議する予定だったが、上半期は事情により中断した時期あり。利用者増員については、支援学校生徒の実習を積極的に受け入れてきたが、市の入所調整の段階では大半が第 2 希望となり、結果的に入所決定には至らず。理由として、内部改修工事の業者選定が不調となり生活介護事業への移行時期が不透明。地域活動センターの延長により利用料負担が生じる。さらに駐車スペースに限りがあり送迎車両 2 台では広域の送迎ニーズに対応できない。人数増員に対する活動室の狭さの不安などが想定される。活動展開については、室内と地下鉄外出とに分かれて行なう旨は伝えていたが、この時期、地下鉄東西線は開業しておらず、イメージは付きにくいと思う。いずれにせよ、スペースの問題は小規模事業所故の課題である。そうした中、H28 年度は支援学校卒者 1 名、太白福祉センターとの併用者 1 名、法人内異動者 2 名の計 4 名の通所が決定。70 代利用者は高齢系の事業所へ異動となる。今後、生活介護事業移行までには利用者 3 名増（計 16 名）を目指し、事業運営の安定化を図らなければならない。仙台市からは定員 20 名を求められており、支援体制や活動の組み方について検討を重ねてきた。

市が行なう内部改修工事は、事務室・静養室・玄関の改築、並びに敷地のアスファルト施工までである。昭和 49 年築の建物を仙台市より借用し、平成元年に八木山つどいの家は開所した。よって老朽化したフェンスなどの外構工事も行なわなければならない。加えて、利用者増員並びに活動室の環境整備、給食を提供するための厨房設備や喫茶店の設備整備に費用が嵩む。それらの費用は法人負担で行なわなければならないため、後援会を中心に協力金として呼びかけて捻出することとなった。事務機器については旧式 PC・複合機を使用しているが、昨今のセキュリティー対策かつ業務効率化を鑑み、買換えが必要である。そうした課題を検討するため、下半期より八木山推進プロジェクト委員会を再開し準備を進めてきた。1 月の段階で、年度内内部改修工事は見合せとなった旨の連絡を受け、スケジュールの全面的見直しを迫られた。市より新たに提示されたスケジュールでは工事期間は 6 月から 9 月までとし、10 月より生活介護事業へ移行予定。それらの準備を前倒しで進め、万全な態勢で望まなければならない。

外壁モザイクタイルの装飾については、絵本作家にデザイン使用の承諾を得て、美術系大学の教授と学生（有償ボランティア）による全面的なアート支援を受けて制作を推進することになった。生活介護事業移行後の昼食は、つどいの家アプリで調理したものを真空包装で運搬し、給食スタイルで提供することに。事業移行は長期化するものの、利用者とその家族から、特に不満の声は聞かれないが、先の見えぬ不安感は否めないように感じる。

地域とのつながりは、会報を毎月町内会で回覧、地域祭りや学校行事の参加などを継続している。また、事業所ではバザーを開催。地域に根付いていると感じるが、甘んずることなく地域との関係性は深めて行きたい。そのためにも隣接する市民センターとの連携は欠かせない。また、これまで地域の方による活動ボランティアの協力はあったが、年々減少傾向にある。地下鉄東西線開業に伴い、地下鉄駅周辺大学の学生ボランティアへの働きかけがより必要となる。

○重点課題と具体的取り組み

分類	重点課題	具体的方法	評価
事業運営今後の方向性	・太白区内のしょうがい福祉サービスの充実 ・八木山つどいの家の今後の展開。 ・利用者さんの笑顔（満足度を図る） ・安定した運営と新たな事業展開	・八木山つどいの家が有効利用できるような計画を立て推進する。プロジェクトチームを発足し検討して進める。 ・利用者さんの人権に配慮した関わりを再認識し、より多くの笑顔が見られるよう努める。 ・アプリと共同して地域生活支援の推進を図る。	・プロジェクト委員会は前期に中断した時期はあるが、後期より再開し協議を重ね方向性が見えてきた。 ・新規利用の目標数までの増員には至らず。

活動	・ 充実した活動の展開 ・ 本人、家族への可視化 ・ コミュニケーションの向上	・ アート、音楽、外出・体験く交流に力点を置いた展開を具体的に組み立てる。 ・ 分かりやすく楽しい活動になるよう工夫する。また、本人聞き取りの工夫や活動の様子を積み重ねた視点や意見の取り入れなどさらなる改善を図る。	・ 改修工事時期が不透明なため、活動予定の組直しが続き、安定的なサービス提要には至らず。 ・ 個別対応の活動がなかなか組めず。
はたらく	・ 作業内容の充実を図る。 ・ 収入増ができる販売戦略が必要。	・ 一人ひとりやりがいを持ち、見通しの立つ活動内容を準備する。 ・ 既存の作業品だけでなく、併せて販売できる品物を見出す。 ・ 喫茶活動の体験を進める。	・ 販売会参加の頻度を増やし、意欲的に取り組む。 ・ 販売種の検討には至らず。
送迎	・ 駐車場問題と送迎体制への課題	・ 送迎体制、車両管理、駐車場管理を合わせて安定した送迎と車両管理ができるよう計画し実施する。 ・ 近隣の駐車場確保に努める。	・年度途中より駐車場契約が打切られ、敷地内駐車で不便に。
震災復興	・ほぼ現状復帰した。 ・ＢＣＰ計画の策定	・法人の復興計画をもとに一人一人が意識して臨めるよう配慮する。 ・具体的に何を進めていけばよいのか情報を収集しながら対応していく。 ・自主防災システムを強化する。 ・備蓄品の見直しを図る。 ・ＢＣＰ計画の策定	・倉庫等の保管場所が少なく、防災用品の整備に課題あり。 ・発災時は地下鉄駅や隣接市民センターとどのように連携を図るか検討が必要。
その他	・ 保護者会との関わり ・ 人材育成 ・ 地域との関わり ・ ボランティアの充実 ・ 虐待防止	・ 保護者会への情報共有と協力関係を密にし、共に運営していく姿勢で臨む。 ・ さらなるステップを目指して人材の育成指導を強化する。 ・ 積み重ねてきた地域との関係や連携を継続していけるよう月間や年間の予定の中で細やかに対応できるよう工夫する。 ・ 虐待防止にむけた取り組みや話し合いを持つ。	・保護者会の参加者が少なく情報共有や協力態勢に課題あり。 ・地域イベントは継続して参加。 ・ボランティア減少。地下鉄沿線大学へ働きかけ必要。 ・送迎等で不在多く内部研修の機会は難しい。

通所者数　定員概ね１２名、登録１０名

年齢	～17	18～19	20～29	30～39	40～49	50～	計	太白区	他区
男性	0	2	3	0	0	0	5	4	1
女性	0	0	2	0	1	2	5	4	1
計	0	2	5	0	1	2	10	8	2

障害支援区分　新利用者２名は区分調査未実施

区分	1	2	3	4	5	6	平均
男性	0	0	0	2	1	0	4.3
女性	0	1	3	1	0	0	3.0
計	0	1	3	3	1	0	3.5

障害状況・合併症等

障害状況	知的	身体	精神	自閉症	てんかん
男性	5	0	2	1	0
女性	5	1	1	1	0
計	10	1	3	2	0

週利用状況

曜日	月	火	水	木	金	平均
男性	4	5	4	5	5	4.6
女性	5	4	4	4	3	4.0
計	9	9	8	9	8	8.6

事業実施状況

行事項目	内容
地域交流	八木山中学校文化祭、八木山１丁目公園祭り、市民センター祭り
社会参加	イオンレシートキャンペーン
販売促進	市民広場販売会、区役所販売会、八木山生協販売会、バザー
その他	芋煮会、避難訓練、健康診断

諸会議

会議名	内容	回数
職員会議	概ね月１回、当月の報告、次月の予定、協議確認事項等	13
ケース会議	概ね月１回、新規利用者ケース確認、個別支援計画の中間まとめ・年度まとめ、次年度の個別支援計画の立案等	14
月案会議	月１回、個別支援計画や希望をもとに次月予定を調整等	12
八木山推進プロジェクト会議	改修計画、業移行・展開、利用者増員、活動室環境整備、給食提供方法、喫茶営業内容、機器備品等の整備等	5
その他	法人内会議・委員会、太白区ネットワーク会議等	

仙台市若林障害者福祉センター　事業報告

□生活介護事業

□自立訓練（生活訓練）事業

○総括

平成 27 年度は職員６名の内３名が復帰・新規職員という体制で始まったため、利用者・ご家族また、センター内の他団体とも一層協調を図るべく努めてきた。

そのような中、支援員による医療的ケアを開始し３年目を迎え、法人内他の生活介護事業所とは異なり、指導看護師が他団体の看護師という状況で、“生活行為の一部としての医療的ケア”を実施するために職員間の医療的ケアに対する意識を高め、更に専門職と支援の方向性を確認することにより医療的ケアの強化が図られた。

また、平成 26 年度末と平成 27 年度初めに 2 名の利用者が、立て続けに突然亡くなるというこれまでにない経験をし、関わりを深めていた職員は喪失感を覚えずにはいられなかった。我々の職業が命と向き合っている事を改めて認識させられる出来事であった。

生活介護事業においては、引き続き、自己表現の一環としての創作活動に力を入れ、これまでにも応募・参加してきた作品展の他、奈良県で行われた奈良県障害者芸術祭に応募したところ、東大寺大仏殿の参道に利用者の作品が「幡」として採用されたことは、活動の成果と発表の場が県内に止まること無く大きく広がった。

また、27 年度に掲げていた「バスを利用しながら地域資源を活用する機会を増やす」という課題については、乗り継ぎ等の問題もあり実現に至らなかったことから、地下鉄東西線の利用も含め再考したい。

一方、生活訓練事業は、久々に利用者を迎え支援を進めていく過程で、これまで社会との接点が少なく福祉的な関わりも無い生活を送っていた背景等を知り得る中で、利用者本人の生活構築への働きかけ、ご家族も含め福祉事業所の捉え方への働きかけ等が要求された。「働く」とはどういうことなのかを知ることから始め、近隣の車メーカー販売店や味噌醸造メーカー、福祉事業所の訪問を繰り返した結果、本人の漠然とした就労への思いが具体的なイメージを持つにいたった。我々がこれまでに経験したことのない支援が求められ、「社会との関わり方」「働く」ということについて事業を通し強く向き合えた１年であった。

障害者福祉センターの通過型の機能として、利用者が安心して地域生活ができるよう支援する一方、他事業所への移行も求められている。センターの利用が長期に渡っている現状の中で、2 名の利用者の移行が出来たことは一定の成果と考えており、次年度以降も他事業所との連携を深めながら継続して取り組んでいきたい。

○　重点課題と具体的取り組み

	分類	重点課題	具体的取り組み	評価
1	本人主体の個別支援計画の推進	・本人のニーズを引き出すコミュニケーション支援 ・実現できる支援目標を設定し、達成感を味わえる支援	・一人ひとりと丁寧に向き合い、本人の思いや気持ちを確認。 ・コミュニケーション機器の工夫、活用。 ・ＳＴ(言語聴覚士)と連携し言語に関するコミュニケーション支援を実践。 ・達成感を味わえる支援。 ・生活圏域での暮らしを意識した活動の展開。 ・面談（年２回）や家庭訪問、電話連絡等を通し、家族との関係性を構築。	・必要に応じて環境を整えながら１対１で向き合う時間を設けたことで、本人の思いを引き出し、確認することができた。 ・コミュニケーション機器の積極的な活用には至らなかった。

2	重いしょうがいのある方の支援の強化	・医療的ケアの支援の充実 ・自閉症の支援の充実	・協会看護師との連携と安全委員会運営のもと、支援員による医療的ケアを実施。 ・通院同行し主治医との連携を推進。 ・場所、時間、作業等の構造化で環境を再構成し、計画的継続的に支援。 ・意思伝達やこだわりの把握を通した対応の共通化。	・医療的ケアのある人が安定して通えた。 ・併用しているコペルと連絡を密に摂ることで利用者の1週間の状況を確認しながら活動に取り組めた。
3	連携機能の強化	・移行を見据えた地域事業所や地域資源との連携 ・相談支援事業所、関係機関との連携 ・福祉センター内５事業間の連携協働を推進	・地域の様々な資源を回り、働き掛けながら関係性を構築。 ・南部アーチル、相談支援事業所との連携強化。 ・福祉協会スタッフ、看護師、ＳＴ、栄養士等との連携強化。	・利用者の移行を進められた。 ・生活介護・生活訓練の支援会議に仙台市障害者福祉協会看護師が参加したことにより、利用者への共通認識ができ支援の強化が図られた。 ・関係性が深まり、チームアプローチがスムーズに行えるようになった。
4	生活訓練事業の確立	・生活訓練事業をプログラム化し、関係機関への事業説明 ・福祉センター間での課題共有、市障害者支援課及びアーチルと事業展開に関する協議	・生活訓練事業のプログラム化とシミュレーション、情報収集等をもとに事業展開を具現化する。 ・新たなリーフレットを作成し、相談支援事業所や学校等にて事業説明を実施する。	・SST（社会技能訓練）の技法を支援に用いることで他者とのコミュニケーションを取ることはどういった事かを知ることができた。
5	福祉センターの機能推進	・活動の場を地域に広げ可能性を見出し、地域との繋がりを構築 ・センターイベントや地域イベント参加等を通し、福祉センターの理解啓発を推進する。	・地域活動の更なる展開をコーディネートし、福祉センターの理解啓発推進。 ・福祉センター内５事業、福祉センター間、行政と継続的な検討。 ・区ネットワーク会議への参加。	・センターとして町内会や近隣事業所との連携が生まれてきた。 ・地域住民への新たな啓発については、改めて模索していく。

〇事業実態状況

〈　諸会議　〉

会議名	頻度	内　　容
職員会議	月１回	事業所運営の方向性、日程確認、企画案検討・意見交換など
支援会議	月１回	個別支援計画立案・見直し・検討、各ケースの把握など ＊福祉協会看護師参加
月案会議	月１回	活動・体制調整、車両使用予定確認など
センター運営会議	月１回	各事業報告、センター運営の課題検討、意見交換など
センター広報委員会	月１回	センター機関誌編集発行作業など
センター祭り委員会	年６回	センター祭り企画・運営など
センター研修委員会	月１回	センター内部研修企画・実施
送迎入浴連絡会	月１回	福祉協会職員と送迎入浴調整、課題検討など
給食連絡会	月１回	福祉協会職員と給食調整、課題検討など
看護師連絡会	月１回	福祉協会職員と利用者の健康や医療的ケアの確認、情報交換など

喀痰行為等安全委員会	月１回	支援員による喀痰行為検討、実地研修進捗確認など
言語摂食嚥下連絡会	月１回	福祉協会看護師・言語聴覚士と摂食嚥下についての課題検討

〈　行事関係　〉

・センター祭り　・とっておきの音楽祭　・ウエルフェア　・ＮＰＯプラザカフェ個展
・六郷市民センター祭り　・遠見塚小学校キャップハンディ講座　・若林区民ふるさと祭り
・みんつく祭り

○利用者状況

□年齢別　□居住区

	年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～	合計	若林区	太白区	宮城野区
生活介護	男	1	4	2	0	0	1	8	7	1	0
	女	0	1	1	1	0	2	5	4	0	1
	計	1	5	3	1	0	3	13	11	1	1
生活訓練	男	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0
合計		1	5	4	1	0	3	14	12	1	1

□障害支援区分

	区分	3	4	5	6
生活介護	男	1	1	1	5
	女	2	0	2	2
	計	3	1	3	7
生活訓練	男	0	0	0	0
	女	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
合計		3	1	3	7

□手帳保持状況

	手帳	療育手帳		身障手帳		精神手帳
	区分	A	B	1～2級	3～6級	1級
生活介護	男	8	0	5	0	0
	女	4	1	2	0	1
	計	12	1	7	0	1
生活訓練	男	0	1	0	0	0
	女	0	0	0	0	0
	計	0	1	0	0	0
合計		12	2	7	0	1

□合併症

		自閉症	てんかん	統合失調症	肢体不自由	医療的ケア
生活介護	男	1	5	0	5	3
	女	0	2	1	2	1
	計	1	7	1	7	4
生活訓練	男	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0
合計		1	7	1	7	4

＊医療的ケア…経管栄養、導尿、吸引、吸入、酸素、人工呼吸器など

□週間利用状況

		火	水	木	金	土
生活介護	男	2	2	2	3	4
	女	3	4	3	3	3
	計	5	6	5	6	7
生活訓練	男	1	0	1	0	0
	女	0	0	0	0	0
	計	1	0	1	0	0
合計		6	6	6	6	7

〈　研修関係　〉

若林ネットワーク会議、リーの会視察研修（さくら草･千葉重症児者を守る会）、障害保健福祉新任研修
摂食指導者研修、全国施設長等会議、成人施設中堅者研修、障害者福祉関係施設等職員研修会、さをり指導者養成講座、仙台市障害者ケアマネジメント従事者養成研修、全国グループホーム等研修会、成人施設中堅者研修
SST ステップバイステップ講習会、社会福祉士指導者講習会、自閉症･発達障害児者支援セミナー
全国知的障害福祉関係職員研究大会、障害者福祉センター医療的ケア研修、喀痰吸引等研修、療育支援研修会
宮城県小児在宅医療支援研究会、日中活動支援部会施設長等研究会、地域医療従事者研修会
仙台市障害者ケアマネジメントリーダー研修、情報セキュリティ研修、全国障害者生活支援研究セミナー

〈　利用者出欠状況　〉

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開所日数		21	21	21	23	21	21	23	19	19	20	19	23
生活介護	利用予定者数	98	119	117	129	118	118	129	103	104	112	103	132
	実利用者数	95	99	95	103	100	97	100	78	78	85	79	100
	利用率	96.9%	83.2%	81.2%	79.8%	84.7%	82.2%	77.5%	75.7%	75%	75.9%	76.7%	75.8%
生活訓練	利用予定者数	0	2	9	9	8	8	9	8	7	8	7	10
	実利用者数	0	2	9	9	8	8	9	8	7	8	7	10
	利用率	0%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
全体	利用予定者数	98	121	126	138	126	126	138	111	111	120	110	142
	実利用者数	95	101	104	112	108	105	109	86	85	93	86	110
	利用率	96.9%	83.5%	82.5%	81.2%	85.7%	83.3%	79%	77.5%	76.6%	77.5%	78.2%	77.5%
	一日平均(人)	4.7	4.8	5	4.9	5.1	5	4.7	4.5	4.5	4.7	4.5	4.8

地域生活サポートセンター「ぴぼっと南光台」事業報告

１．総括

平成 26 年 4 月に開所した当事業所も設立から 2 ヶ年が経過した。平成 27 年度はぺんたすの常勤職員を 4 名増員し、常勤職員 10 名体制で事業所の運営を行なった。ピボット若林、ぴぼっと支倉に続く 3 ヶ所目の地域生活サポートセンターとして、各種障害福祉サービスを実施。また、地域共生型福祉施設整備事業の一環として、サロン活動と貸館事業を実施した。年度当初に掲げた運営方針の一つ、『利用者及び地域の方々から信頼を得るサービス提供と事業所運営を行なう』については、事業所内の情報共有や課題の共有に課題が残るものの、日々のケアを丁寧に実施することが出来ている。また、バザーを含むサロン活動の実施、南光台通信の配布先拡大や後援会の募金箱設置依頼などを通して、地域とのつながりも少しずつ作ることが出来た。

２．すてっぷ・はうす（仙台市障害者家族支援等推進事業）

平成 27 年度更新後の登録者は 103 名（※平成 26 年度比較で登録抹消者 6 名　新規登録者 1 名）。常勤職員 2 名と登録介護人とで事業の運営を実施。両親の別居や兄弟の進学など家族状況の変化や本人の行動変化に伴う宿泊介護の提供増から年度当初に申請していた提供時間数を 300 時間ほど上回った。（平成 27 年度当初見込み 9,223 時間　平成 27 年度実績 9,567 時間）

仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会にも継続して参加。連絡協議会の主催で研修会を実施すると共に、レスパイトサービスのあり方を見直す為、当事業所の職員が視察研修にも参加をした。福祉有償運送事業については、学校の登下校や習い事への送迎などを目的とする利用が多く見られる。

３．ぺんたす（障害者ホームヘルプサービス事業）

常勤職員 6 名（内 1 名グループホーム兼務）と登録ヘルパーで事業運営を行なった。平成 27 年 10 月に『ぴぼっと（※ピボット若林内障害者ホームヘルプサービス事業）』と事務機能を含めた完全分離を行なう。平成 27 年度末時点で利用契約者 58 名。月の提供時間数は、法人内のグループホームでの提供時間数を含めて 950～1,100 時間で推移している。年度後半には、法人内職員がヘルパー業務に従事する際の労働条件の見直し、これまで請負型であった登録ヘルパーの雇用化に着手。社会保険労務士と共にサービス管理責任者、事務員が中心となって雇用化の実務を担った。

４．ゆあらいふ（指定障害者相談支援事業）

平成 27 年度はセンター長兼相談支援専門員の 1 名体制で事業を実施。平成 27 年度末時点で契約者 61 名（内 42 名は仙台つどいの家利用者）。平成 28 年度の作成予定者 2 名を含めると 63 名となり、平成 27 年度途中から新規契約者を控えている。サービス等利用計画は制度上、基本的に 6 ヶ月に 1 度の振り返りとなっており、1 名作成すると約 3 万円の給付費収入となる。ゆあらいふにおいても、平成 27 年度の給付費収入は約 200 万円であり、給付費のみで事業を運営することは難しい現状である。反面、障害福祉サービスの利用更新に当たっては、サービス等利用計画（ケアプラン）の作成が義務付けられている。量と質は表裏一体であり、契約者が増えれば一人ひとりのプランの質に影響がある。次年度は新規契約者は控え、相談者の一人ひとりのプランの質を保ちながら事業を運営していきたい。

５．すてっぷサロン（地域共生型福祉施設整備事業）

『すてっぷ・はうす』事業棟内にサロンスペースを設置。地域住民の交流等を目的としたサロン企画と共に、貸館事業を実施した。

《すてっぷサロン》

平成 27 年 5 月 28 日（木）　気功体操で元気になろう！
平成 27 年 7 月 10 日（金）　ツクイ台原　訪問入浴サービス　デモンストレーション
平成 27 年 7 月 23 日（木）　英字新聞・カレンダーで作るマイバッグ
平成 27 年 9 月 11 日（金）　南光台三丁目市（バザー）
平成 27 年 11 月 13 日（金）　わらしべノートワークショップ
平成 28 年 1 月 7 日（木）　七草粥を作ろう＆ミニコンサート（給食亭福太郎さん）

《貸館事業》

利用回数　8 回　（ＮＰＯ法人、仙台つどいの家保護者会など）

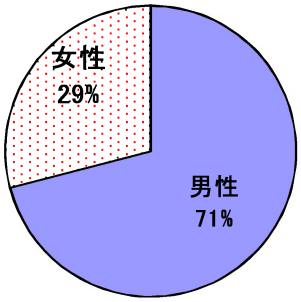
平成27年度　福祉有償運送　状況報告　（平成28年3月末日時点）

利用者数：すてっぷ　18名・すきっぷ　10名・だいち　3名：計　31名（平成26年度比：+1名）

1．利用登録者状況

【性別】

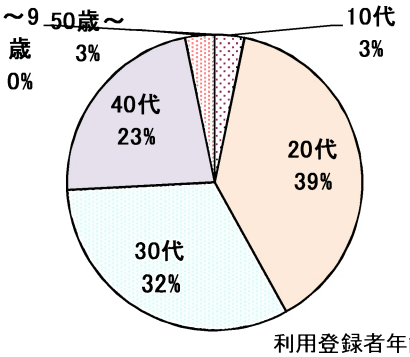
利用登録者	男性	女性
性別	22	9



利用登録者男女比

【年齢】

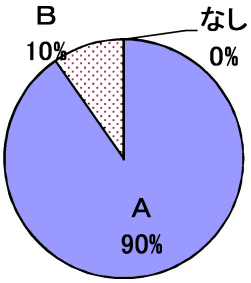
利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	0	1	12	10	7	1



利用登録者年齢

【療育手帳】

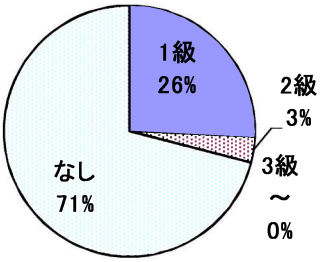
利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	28	3	0



療育手帳保持状況

【身障手帳】

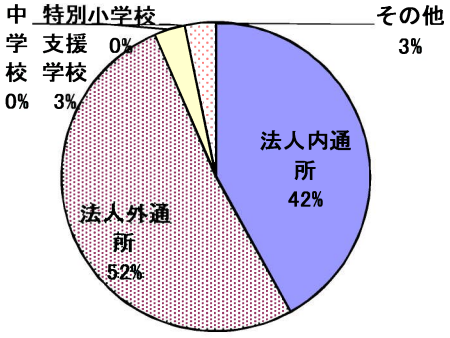
利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	8	1	0	22



身体障害者手帳保持状況

【在籍】

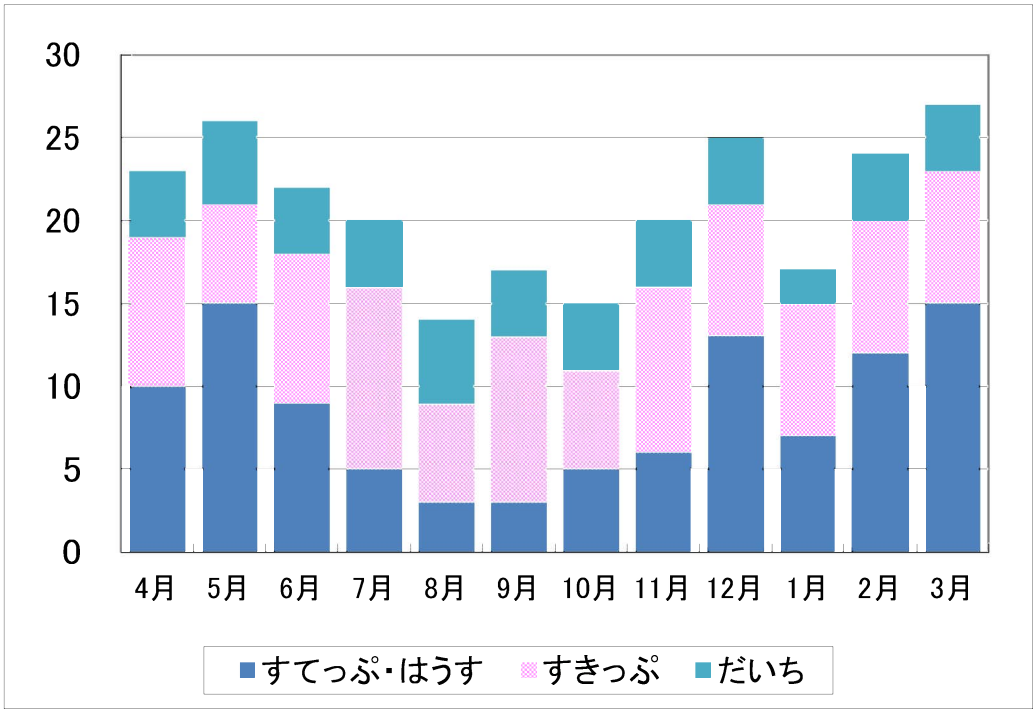
利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	13	16	1	0	0	1



在籍状況

2. 利用状況

利用状況	すてっぷ・はうす		すきっぷ		だいち		3事業所計		
	回数	km	回数	km	回数	km	回数	km	
4月	10	44.1	9	38.5	4	33.6	23	116.2	
5月	15	91.4	6	27.8	5	33.6	26	152.8	※だいち
6月	9	52.6	9	40.8	4	16.8	22	110.2	※だいち
7月	5	22.0	11	65.4	4	33.6	20	121.0	
8月	3	14.6	6	27.8	5	42.0	14	84.4	
9月	3	20.7	10	41.1	4	33.6	17	95.4	
10月	5	27.8	6	27.8	4	33.6	15	89.2	
11月	6	30.4	10	41.9	4	33.6	20	105.9	
12月	13	58.2	8	32.1	4	33.6	25	123.9	
1月	7	19.0	8	35.4	2	16.8	17	71.2	
2月	12	56.0	8	32.1	4	33.6	24	121.7	
3月	15	74.6	8	36.0	4	33.6	27	144.2	
合計	103	511.4	99	446.7	48	378.0	250	1,336.1	



地域生活サポートセンター「ぴぼっと支倉」事業報告

仙台市障害者相談支援事業・仙台市障害児等療育支援事業「とびら」
仙台市障害者家族支援等推進事業「だいち」
福祉有償運送事業

レスパイト事業は家族や本人のニーズに添った非常に使い勝手の良い事業として大切に育てられてきた。しかし、補助金の仕組み、職員体制の限界や登録介護人の不足（特に宿泊や土日対応できる介護人）等の全市的な課題があり、『利用希望に十分対応しきれない』『新規登録を受け入れられない』状況がここ数年続いている。仙台市障害者家族支援等推進事業連絡協議会としての度重なる要望を受けて、平成２７年度末に太白区に新規レスパイト事業所が開設されたものの、新規登録者枠に限りがあり根本的な課題解決には至っていない。だいちにおいても上記の課題は例外ではない。他の事業所と異なり法人内の通所施設が近隣になく、安定的な利用が得られなかったり法人職員の介護人稼働を確保しづらいことなどもあり、今年度の利用実績数は当初の予定を下回った。にもかかわらず、新規の登録者の希望にも対応しきれていない状況にある。月々の利用見込みの把握や職員と介護人の介護比率の検討など、運営面についても現場でしっかりと意識していく必要がある。

とびらにおいては、『専門性、緊急性、地域性、継続性』をキーワードに、これまでの委託相談利用者やきめ細かい対応・ケアマネジメントが必要な利用者、支倉近辺在住で地域の特性を生かして対応できる対象者を中心に計画相談を導入してきた。しかし、『家族全体で支援が必要なケース』や『自ら思いを伝えられなかったり認識していないケース』、『医療や行動面での障害の重度なケース』など支援が難しく丁寧さと専門性が必要なケースが増えてきているため、計画作成を制限することが非常に難しい状況である。この結果、２７年度は約１９０件に上り、１ケースにかかる時間と相談員の心身の負担が大きくなった。委託相談のケースを計画相談に移すことで委託相談のケースは減少しているものの、サービス利用につながらない・サービスの利用で解決しないケースも依然として８０件ほどあり、相談員の負担の増加につながっている。このような状況もあり、地域のネットワークづくり・インフォーマル資源の拡大・地域への啓発活動など委託相談事業所が担うべき役割に取り組み切れていない状況もある。一方、青葉区自立支援協議会（サポネットあおば）に中心的に参加し、区や相談事業所同士の連携・人材育成・個別ケースを通しての課題抽出など地域全体で利用者をサポートしていくシステム作りは大いに進めることができた一年でもあった。

○　重点課題に対する評価

分類	重点課題	具体的取り組み	評価
とびら	・相談支援の質の向上	・研修参加及び内部での共有により全体のスキルアップを図る。	OJT+研修案内、市の指定研修を受けることで最低限は行えたが、個人に合わせて計画的にできるとなおよかった。また、他者の研修の共有も不十分だった
	・青葉区における地域づくりへの貢献	・関係機関とのケア会議 ・区や他委託相談支援事業所と連携したケース支援の実施 ・青葉区自立支援協議会への参加	サポネットあおばでみんなで行うことで相談事業のPR・事業所同士の連携、情報収集・連携のネットワークが図れた。
	・サービス等利用計画作成	・現行サービス等利用計画の作成。 ・他指定事業所への計画作成依頼	26年度終了時点で123件、逝去,転居,介護保険移行、サービス利用終了などによる抹消 9 件あった中で現状として190件となっている。他事業所への移行など連携も行っているが、緊急性、地域性、専門性などから受けざるを得なかった状況もある。なお、緊急・専門が問われるものはケース的に密度の濃い支援が必要でありさらに負担は大きい状況。新規相談事業所がなかったこともあり、理由ときっかけをつかめず移行もできていない。
	・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・相談員ミーティング、事例検討会議の実施 ・外部研修への参加	定期の相談員ミーティング、密なパソコン記録打ち込みはできた。新規など事業所・制度情報も共有した。レビュー中心であり細かい検討会議の方法は工夫が必要。

だいち	・事業内の情報及び支援の方向性の共有	・だいちミーティングを行い、利用状況、利用者・介護人の状況、環境整備等の共有、またひやりはっとの振り返り、検討を行なう	都度、密に行う事が出来た。
	・職員、介護人の質の　向上と人材確保	・法人内レスパイト事業所と協働し、介護人を対象とした研修を実施する。 ・近隣への介護人募集チラシの設置	法人内レスパイト事業所と協働した介護人対象研修は３度実施。 他、必要に応じて話し合いを進めた。介護人募集活動はリアクションが少ない状況。
	・行政や他事業所との連携	・レスパイト連絡協議会への参加と連携。運営上の課題を整理 ・課題を連絡協議会から行政へ提起し、共に考える。	連協で課題整理と解決への取り組みを継続中。
	・環境整備	・設備備品の整備・管理を意識して行う ・薬品等の適切保管	積極的に行うことが出来た。
全体	・経営面の改善	・職員の直接介護比率の検討 ・事業移転等も含む事業所運営に関する検討を法人レベルで行う	・安定した比率を維持することが出来た。 ・検討するも明確な結果や方向性を示すことが出来ていない。

平成27年度　仙台市障害者相談支援事業実績報告書

実施主体名称		社会福祉法人　つどいの家
実施施設	名称	とびら（ぴぼっと支倉内）
	住所	青葉区支倉町2－35

1．相談者数・件数　　（単位：延べ件，実人員のみ人）

①相談支援を利用している障害者等の人数

		実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳機能障害 (7)	難病 (8)	その他 (9)
障害者	(01)	176	38	6	215	52	19	1	0	0
障害児	(02)	127	20	33	141	3	15	0	3	0
計	(03)	303	58	39	356	55	34	1	3	0

②　①相談支援を利用している障害者等のうち、新規の相談者の人数

実人員	116

③新規相談者の紹介元

	当事者・家族	区役所	その他行政機関	医療機関	福祉サービス事業所等	地域包括支援センター・居宅介護支援事業所	地域関係者	その他	計
実人員	48	15	7	8	18	3	0	17	116

④相談支援を利用している障害者等のうち、支援終了としたもの

実人員	77

⑤支援方法

		訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談(Fax含む) (4)	電子メール(手紙含む) (5)	個別支援会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
件数	(07)	265	74	103	496	28	47	2055	0	3068
実人数		88	42	63	133	6	37	282	0	651

⑥個別支援会議の内訳

	事業所自らが会議主催	他機関主催の会議出席	所内での事例検討等	計
件数	23	24		47

⑦支援内容

		福祉サービスの利用等に関する支援 (1)	障害や症状の理解に関する支援 (2)	健康・医療に関する支援 (3)	不安の解消・情緒安定に関する支援 (4)	保育・教育に関する支援 (5)	家族関係・人間関係に関する支援 (6)	家計・経済に関する支援 (7)	生活技術に関する支援 (8)	就労に関する支援 (9)
件数	(08)	943	399	269	88	44	206	107	264	141
（再掲）ピアカウンセラー	(09)									

		社会参加・余暇活動に関する支援 (10)	権利擁護に関する支援 (11)	その他 (12)	計 (13)
件数	(08)	50	45	28	2584
（再掲）ピアカウンセラー	(09)				0

2. ケアマネジメント実施状況(1.相談者数・件数のうち、ケアマネジメントを提供しているもの)

①ケアマネジメントを利用している障害者等の人数

	実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳機能障害 (7)	難病 (8)	その他 (9)
障害者 (01)	157	18	5	119	23	4	1	0	0
障害児 (02)	136	10	28	74	0	12	0	2	0
計 (03)	293	28	33	193	23	16	1	2	0

②新規・終了者数

	ケアマネジメント提供数		
	合計	うち新規	うち終了
障害者(実人数)	143	19	0
障害児(実人数)	131	19	0

③支援方法

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同行 (3)	電話相談 (Fax含む) (4)	電子メール (手紙含む) (5)	個別支援会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
件数 (07)	174	16	87	294	15	33	770		1389
実人数	79	14	57	91	6	28	221		496

3. 地域交流活動

①地域交流室の実施状況

	実施日数	実人員	延利用者数
件数	0	0	0

4. 相談傾向と課題

昨年度は「①将来の生活の場・特にグループホームを課題としているケース」「②支援者が不在だったり障害があったり、・高齢化などで家庭全体で支援が必要なケース」「③母子父子家庭で本人と支援者が1:1になるケース」「④医療的ケアが必要なケース」「⑤『高齢』、『医療』、『法律』など他専門分野と密にに関わる相談」「⑥発達障害や難病など手帳の持っていないケース」を主に上げた。その状況は今年度も変わらないところか増え続けており、さらに多様化している。特に、①～⑥で複数該当するなど重複しているケースも少なくない。

①に関しては相変わらずニーズが高いが件数的にはほとんど増えてはおらず課題のままである。その中でも、わずかながら新事業所が増えたり、パンションや不動産屋などインフォーマル資源とつながったり、ヘルパーとともに対応していくことでの本人のエンパワメント化による一人暮らしなどの道筋も見えてきている。しかし、法人としてのホームは増えていても、そこに所属していない人が住めるホーム(特に24時間対応)、多動だったりや環境の変化が苦手な重度の発達障害のあるケースや、医療的ケアが必要なケースなどはなかなか次の住居が見つけられず待機のままでいることが多い。自宅での24時間ヘルパーなどの利用ができるようになる等の対応も進められるとよい。

②も家族の高齢化どころか逝去して介護者がいなくなったり、家族の体調悪化で生活が危機になったケースも少なくない。また、家族がぎりぎりまで耐えている現状もある。サービスを組み合わせたりして対応できるケースもあるが、長期在宅で支援受け入れが難しいケース、こだわりが強く対応できる支援者が限られている、24時間体制が必要などもありそれだけでは対応しきれていないケースも多い。親が高齢ではなく各種手帳を持っていたり、持病、発達・精神的な特性を持っていることで家族全体支援が必要なケースも増えている。また、支援者だけでなく兄弟全員が手帳を持っている、もしくは持ってなくても支援が必要な状況であるケースも増えている。ただ、行政機関や相談事業所同士で連携して対応することも増えてはいるが根本的な解決に至れていないことも多い。地域(町内レベル)のインフォーマルな支援力の低下に加え、もっとマクロレベルでの家庭レベルの支援力の低下も併発しているのは大きな課題。

③に関しても同様で介護者負担が大きくなることで本人への対応が困難になりとどんどん悪循環になるケースも多かった。②と重複している場合も多くそうなると、本人の生活環境の悪化で二次障害(特性でできないだけでなく生活歴で身についた・もしくは身につかなかった習慣やも楽・独自ルールにより社会になじめない状態等)につながるケース、既にそれが顕著に見えているケースも多く、本人が暴れてしまったりそれを防ぐために手が出てしまったりと虐待ケースやその予備軍であるケースも少なくない。

④に関しても人工呼吸器をつけている、適宜吸引が必要、胃瘻が必要、進行性の難行といういわゆる重度心身障害以外のケースも増えた。二分脊椎による導尿、腸の難病による適宜のガス抜き、腎臓機能低下による透析、原因不明の肝機能低下の持病などなどであり、医療分野との連携、本人のメンタル面の維持や趣味や余暇の充実など幅広くケアしていく必要がある。相談員の幅広い基礎知識も求められているがなかなか身につける時間も確保できず自転車操業的になってしまう場合も増えている。また、これから地域に退院してくるだけでなく、地域で生活していたが家庭環境の変化や引っ越しや卒業・進学などで生活状況が変わったり、本人のケア状況が変化することでサポートが適宜変わりその都度対応が必要であり支援体制の安定が図りずらいケースも多い。

⑤に関しては高齢化している、触法ケースが増えているなど課題面も多い一方で、支援者間の連携が比較的取れ始めている。青葉区自立支援協議会の取り組みも大きいし、介護保険や法律の分野でも障害分野からみた課題を共通で感じてもらっていることからお互いに連携しあえているように思える。

⑥に関しては発達障害、難病のほか幼すぎてまだ判定できないケースだが、家族の負担が大きくて支援が必要なケースなども見られている。区やアーチルと連携しながら意見書で支給決定を受けるなどして対応したり、インフォーマル資源を活用して対応するなどしている。

その他、転居してきて0から支援体制を作るケース、周囲から見てかなり支援が必要な状況でも本人もしくは家族も誰かのサポートを求めようとしないケースなどなど多様かつ課題が重複していることも多い。相談事業所間の連携、地域住民やお店などインフォーマル資源の活用などで対応している。誰何し、それで対応しきれる場合もあるが、支援が必要とつながってくるケースの多さが圧倒的に多くまた、継続かつ適宜の変化が多くきめ細かなモニタリングなどがより必要なケースが増えているにもかかわらず、それができずにいる状況。

5.地域活動の実績と課題

地域活動を主として行うことはほとんどできなかった。法人の後援会活動やぴぼっと支倉の通信発行など。また、依頼を受けての学校や支援団体の講座などのみとなった。ケースを通じての取り組みは行えた。また、サポネットあおばで皆で役割分担をしながら幅広く継続的に取り組むことはできた。

平成 27年度　仙台市障害児等療育支援事業実績報告書

実施主体名称		社会福祉法人　つどいの家
実施施設	名称	とびら（ぴぼっと支倉内）
	住所	青葉区支倉町2－35

障害児等療育支援事業

①訪問療育相談事業

		実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳機能障害 (7)	難病 (8)	その他 (9)
障害者	(01)	2	0	2	0	0	0	0	0	0
障害児	(02)	12	5	3	7	0	1	0	0	0
計	(03)	14	5	5	7	0	1	0	0	0
実施件数	(04)	53								

②外来療育相談事業

		実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳機能障害 (7)	難病 (8)	その他 (9)
障害者	(01)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障害児	(02)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	(03)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
実施件数	(04)	0								

③療育技術指導事業

		実施設数 (1)	延件数 (2)
件数	(10)	10	21

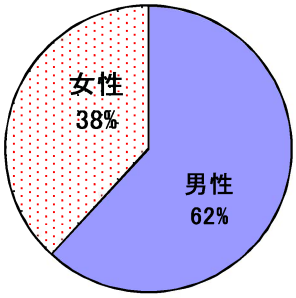
平成27年度　だいち　状況報告　　（平成28年3月末日時点）

合計利用者数：　97 名（平成26年度比：－5名）

1．利用登録者状況

【性別】

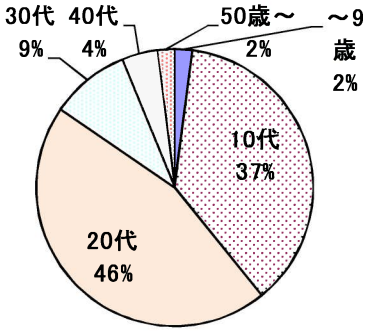
利用登録者	男性	女性
性別	60	37



利用登録者男女比

【年齢】

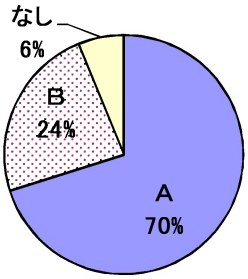
利用登録者	～9歳	10代	20代	30代	40代	50歳～
年齢別	2	36	44	9	4	2



利用登録者年齢

【療育手帳】

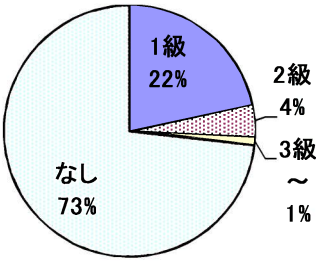
利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	68	23	6



療育手帳保持状況

【身障手帳】

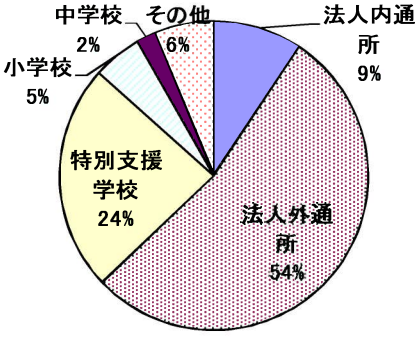
利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	21	4	1	71



身体障害者手帳保持状況

【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	9	52	23	5	2	6

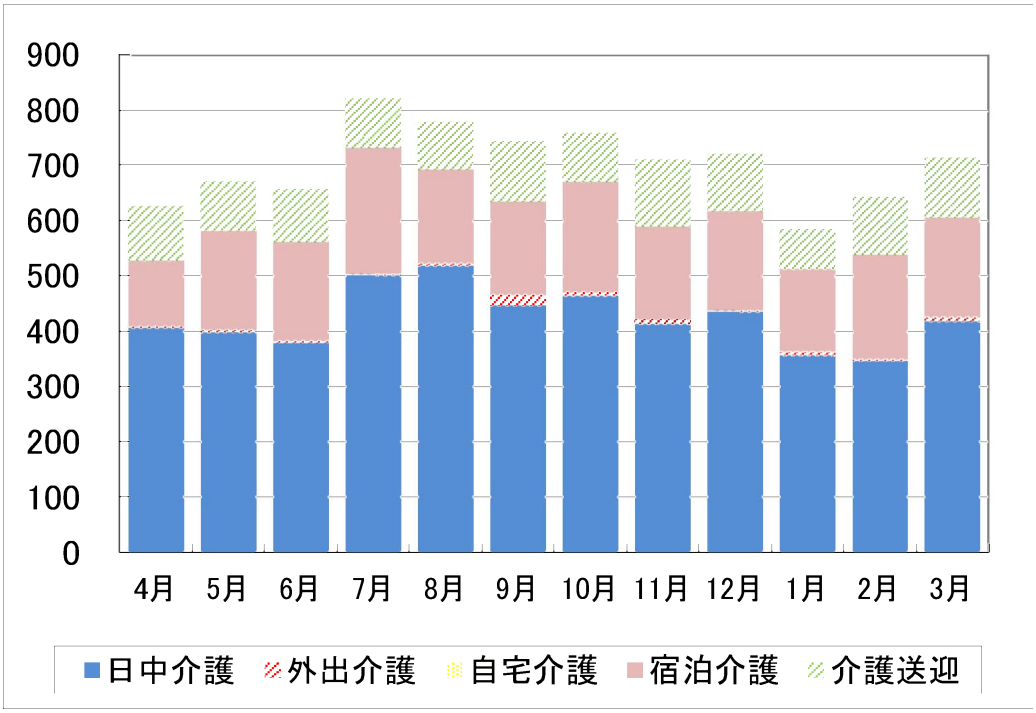


在籍状況

2. 利用状況　　（単位：時間）

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4月	407	2	0	120	98	627
5月	399	3	0	180	89	671
6月	379	3	0	180	95	657
7月	502	1	0	230	87	820
8月	519	4	0	170	86	779
9月	447	18	0	170	109	744
10月	464	7	0	200	89	760
11月	414	6	0	170	120	710
12月	435	2	0	180	104	721
1月	357	6	0	150	72	585
2月	347	2	0	190	104	643
3月	418	8	0	180	108	714
合計	5,088	62	0	2,120	1,161	8,431

＊医療レスパイト含む
＊宿泊介護：1泊＝10時間



地域生活サポートセンター「ピボット若林」事業報告

○　指定相談支援事業「くれよん」
○　障害者家族支援等推進事業「すきっぷ」
○　障害福祉サービス（居宅支援事業等）「ぴぼっと」
○　福祉有償運送事業

相談支援事業「くれよん」

・サービス等利用計画作成

サービス利用計画対応業務のボリュームが大きい。くれよんはコペルとアプリの両方の利用者を対応している。他にも今後も卒業と同時に給付事業を利用していくに当たりサービス利用計画要作成者がどんどん増えてくる。ただ作成していくだけではなく当然モニタリングや計画変更などずっと計画の進捗と運用を調整していくことになる。つまりは受ければ受けるほど際限なく増えていくことになる。一方で若林区内の指定特定相談事業所は三事業撤退し以後増えていない。

・委託相談支援

困難ケース以外は、サービス利用計画作成時においてマネジメントされているケースも多くみられる。そうなると、どんどん計画相談のボリュームが増えていき、いざ困難ケース対応と考えるとバランスとしてはオーバーワークになりやすい。委託事業の持つ役割を明確化にしていくとともに計画相談とのバランスをしっかり取りながら進める必要性が感じられる。

また、区の障害者自立支援協議会も大変重要な役割を担っているが、取り組み内容が大きく多岐に渡っているため体制的な不足は否めない。市の委託事業の求める目標や内容と配置基準の人的体制がそもそもあっていないことが浮き彫りになっているのに対して何年も要望しているのだがいまだ変わらず。今後相談事業を継続していくのかどうかについては次年度において判断と方向性を示す必要がある。

・人材育成

全国の取り組み状況やさらなる専門的な知識習得に向けて外部研修への参加は十分にできたが、内部におけるケースレビューの質と量への取り組みは十分と言えない。個人の相談見立てだけではなく事業単位においてもしっかりとしたマネジメントが行われるよう繰り返しの作業として整備していくことが求められる。

障害福祉サービス（居宅支援事業等）「ぴぼっと」

・登録ヘルパーの雇用契約の整備

昨年度末ギリギリの対応になったが、登録ヘルパーの雇用契約化を整備し進めることができた。一方で労務環境的なすり合わせや整理等が十分にできておらず、今後の運用の中できちんとしたすり合わせと整理が必要である。また、登録ヘルパーが職員という位置付けになると当事業所の所帯も総数２８名となり、かつ様々なところと兼務している職員が多くいる現状なので、適切な労務管理がさらに求められる。

直接業務のみを中心とした働き方ではあるが、その中でも法人の動向や事業所の取り組みなどをしっかりと共有しながら、マンツーマン対応という厳しい現場の中で適切な判断と支援ができるような人材育成も合わせて整備していきたい。(登録に限らず全職員に対して、ケースワークの時間をしっかりと作っていきたい)

・適切な人材の確保と育成

男性ヘルパーの数に対して男性利用が多くみられる。定期利用なのでなかなか断ることもできない。男性職員が２名不足の状態で、女性職員が可能な限り対応に入っている現状である。全体的に多忙を極めているのでなかなか人材募集の取り組みも行えきれていない。一方で勤務時間内ギリギリまでヘルパー派遣に入っているので人材育成する時間や事業全体業務にも対応する時間も調整しきれないでいる。

人を増やしていくだけではなく、最低限事業運営として対応しなければならない事柄については今一度整理し優先順位や収支バランス等に配慮しながら修正を図る必要がある。

・「泊まるんだー」オプショナルサービスの是正

就業規則改正や見直しの中で是正が求められた休憩時間問題や職員が有償ボランティアになり対応してきた現状について、その解釈と根拠が曖昧なので一旦サービスを停止にして年度初め早々に適切なサービスへと修正していくことになっている。

障害者家族支援等推進事業「すきっぷ」

・活動場所が二重対応の現状

南小泉で一軒家のレスパイトは思ったより利用者さんも安定して利用している。昔ながらの建物がよいのだろうか。一方でバリアフリー構造にはしていないので、変わらずに車いすの方は遠見塚のピボット若林で実施している。南小泉で８割以上実施しているので、２７年度一年間は近隣からの騒音等の苦情はなかったため大変良好な状態である。

しかし、職員からすると管理上行ったり来たりの移動等が頻繁で個人情報の管理や安全上の観点からもギリギリの状態である。

早急にピボット若林の再活用を改めて検討し直し、現状改善を図っていく必要がある。

・緊急対応と体制不足

２７年度は年度初めから緊急対応が多く三カ月続いた。その後、利用補助段階をワンランク上げ、９０９０時間へと変更した。しかし、年度内において急に実績を変更すると各職員に求められることも多くなり残業や体制不足が続いた。利用内容の精査を行いできるだけオーバーワークならないように断ることでも対応してきたが、年々緊急以外の利用ニーズの広がりも多く出てきている。利用希望や実績と体制のバランスを絶妙に調整しながらの事業運営なのだが、現状男性職員の不足が続いている。ヘルプ同様に求人活動として様々な関係機関に募集をかけていきたい。

・福祉有償運送事業の現状と今後

レスパイト事業の日中利用や宿泊介護の利用を伴わない利用にかかる送迎を行っている。通院や自宅からの外出などに指定車両を使用し、レスパイト事業利用者で本事業にさらに登録した方が利用できる。本事業は移動困難者の移送を行うことで社会参加、余暇支援の推進を行う。居宅介護、移動支援事業の利用促進にもつながる。しかし、一方でこの事業に係る事務的資料作成や手続きも多くあり、下記の利用現状や介護タクシー等の充実と拡大がみられる中、独自でこの事業を維持していく目的や人的体制があるのかどうか今一度整理していくべきと考える。

実績としてみると、年９９回(片道回数)利用で月平均とすると８．３回、週当たり２回程度の利用である。年間総距離は４４６．７キロ程度である。業務とすると運行前点検や車両点検、業務日誌から運転者講習、利用の更新手続きと会計や事務処理など労働の質と量の観点からすれば赤字的な業務量とも解釈できる。そろそろ事業整理が必要なのかもしれない。

○重点課題と具体的取り組み

分　類	重点課題	具体的な取り組み	成果と課題
人材確保	ヘルパー・介護人の確保	・各大学、専門学校、資格取得校、地域住民へのチラシまきを年間通して計画的に行なう。 ・新たな媒体も活用し、情報を広げていく。	・計画的にできなかった。 ・有料求人会社を活用した。 ・常勤求人と登録や介護人の募集を分けて対応整理する必要あり。
	ヘルパー・介護人とのコミュニケーションを密にとる	・研修会・連絡会・ケース検討会等を定期的に開催し、ヘルパー・介護人の不安や悩み、疑問などをタイムリーに聞き取る。	・ヘルパー連絡会や研修会の実施の中でディスカッションもできたが時間の不足と毎回の参加数が少ない現状があった。
人材育成	スーパービジョン、ファシリテートシステム	・長期的な視点で検討する ・スーパーバイザー養成研修の受講等	・時間の確保が難しい。
	医療的ケアの必要な方へのサービスの推進	・地域からの登録看護師確保、すきっぷ職員の継続的な施設実習、法人職員への協力依頼等を通して介護人・看護師を確保・育成し、医療レスパイトを進めていく。 ・ヘルプ事業におけるヘルパーの医療的ケア（吸引）について継続実施し、今後の展開について検討していく。 ・医療的ケア対応型グループホームの創設に向けて準備をする	・全体的に医療的ケアの推進を図るだけの業務ボリュームを超えている。一旦各事業の業務評価をすべきである。 ・ヘルパー事業における医療的ケアの推進はできそうなところを模索して進めていく。
地域生活支援システム	ネットワーク作り	・若林区ネットワーク会議・若林区相談支援連絡協議会、さらには若林自立支援協議会に事務局として継続参加し、若林区における課題を抽出する。 ・すべての事業で日常的に他事業所との連携を図る。	・課題抽出まで至っていないので、組織作りの後に適切なネットワークづくりと課題整理と共有が必要。自立協の取り組みがまだ入口段階。
	相談支援のシステム作り	・市相談支援事業連絡会に主体的に参加する。 ・五区ネットワーク会議の運営に主体的に参加し、相談支援事業１６箇所の連携を強化する。 ・相談支援事業の再編、若林区地域自立支援協議会の立ち上げに向けて、行政とともに具体的・主体的に進めていく。	・相談支援事業の再編には至っていない。改めて自立協の動きをもって相談事業の役割と組織づくりを今までのネットワーク会議のようなままに終わらせないようにしたい。

	サービス利用計画作成	・法人内通所利用者のサービス利用計画の策定を実施する。 ・作成対象者の年間シミュレーションをもとに実施。法人内利用者に関しては各事業と連携して行っていく。	・法人内のサービス利用計画についてはおおむね対応できている。 ・区内での外部受け入れが厳しくなっている。
	レスパイト・放課後支援事業の課題整理	・市レスパイト事業連絡協議会において課題を共有し、解決について探る。 ・上記連絡協議会や若林区ネットワーク会議において放課後支援事業とのつながりを持ち、児童期の放課後支援についての課題を明らかにする。	・児童デイなどサービスが増えてきているので、そちらにつなげるケースも出てきている。
	自己評価システム	・指針の作成 ・自己チェック	・27 年度実施した。まだ未完成の状態も見受けられるので今後継続整備をしていき活用できるようしていく。
地域・町内会	地域への貢献	・積極的に町内会行事に参加し協力する。	・清掃や防災行事を通してできるだけ参加した。
	まちづくり、啓発活動	・ピボット若林を会場にピボット若林サロンなどを開催する。	・サロンは外部実施で行った。
その他	リスク対応	・各事業会議やリスクマネジメント検討会議において、期間中のヒヤリハットを分析し、再発防止策を検討する。 ・職員会議において対応マニュアルの確認・読み合わせ・取り決めた事項について再確認し、全職員で共有する。 ・防災関係の物品の整備・有事の際の動きの確認を全職員で行う。	・ヒヤリハットは継続して分析対応できた。 ・共有できたが同じようなリスクが発生していた。 ・安否判断や行方不明チャートのも見直しを図った。
	環境整備	・毎月職員会議後に、火元・防火担当箇所の整備日を設定し、環境整備に努める。 ・居室・浴室・トイレ・寝具・送迎車等を常時清潔に保つ。 ・転倒、飛び出し、異食等を防ぐ環境づくりや、利用者が落ち着いて、安心して過ごせる環境づくりをする。	・定期的に清掃や点検整備に努めることができた。 ・廃棄物の処理を実施した。
	書類の整備	・書類の整備、事務的処理の適正化	・書棚の新設をして、書類保管の整理を実施した。

「ピボット若林」事業実施状況（平成27年度）

1. 諸会議

① 職員会議
② チーフ会議
③ ﾏｽﾀｰﾌﾟﾗﾝ推進委員会
④ 経営会議・いちにの会
⑤ 事業運営会議
⑥ ぴぼっと・くれよん・すきっぷ会議
⑦ 各事業ｹｰｽ会議
⑧ サービス提供責任者会議
⑨ 権利擁護委員会
⑩ 震災復興委員会
⑪ 研修養成委員会
⑫ 苦情解決委員会
⑬ 地域生活支援委員会
⑭ 医療的ケア委員会
⑮ 南部GH連絡会
⑯ 後援会役員会等
⑰ 各相談・レスP・ヘルプ事業会議
⑱ 事務総務ミーティング

2. 各行事関係

○法人及び事業行事関係

・ヘルパー研修会／年四回
・介護人連絡会／年二回
連合保護者会P若清掃／年一回
・くれよんサロン／年一回
・上野氏講演会
・ヘルパー説明会／三月

○地域行事参加

・子供会資源回収／年四回
・萩通り清掃／年二回
・町内会防災訓練／一回
・公園清掃、草刈り／年二回
・側溝清掃／年一回
・総会開催／年一回

3. 職員研修　※法人主催以外

・障害者ケアマネ養成リーダー研
・障害者ケアマネ養成実践研修
・高次脳障害支援ベーシック研修
・相談支援全国協議会コーディネータ研
・アーチル発達基礎研修
・武蔵野実践発表会
・小児在宅研修
・会計担当職員研修
・地域生活支援拠点の実際外部研修
・相談支援協会全体研修／新潟
・クレーム研修
・レスパイト連協研修
・アーチル発達障害特別講座
・行動障害研修
・若林区消防技術研修
・アーチル発達障害基礎講座／成人期
・サブファシリ研修
・障害者ケアマネ実践研修
・リスクマネジメント研修
・中堅者研修
・県相談従事者中堅者研修
・個人情報セキュリティ研修

4. 渉外関係

・4/1辞令交付
・4/27後援会総会
・5/12消防訓練実施
・5/21レスパイト連絡協議会総会
・5/26新職面接
・5/22職員会総会
・6/5建物点検／丹秀工務店
・6/10コペルにて健診
・7/1法人全非常勤研修会
・7/7廃棄物処理で引き取り作業
・7/8,17移動支援ソフト検討会
・7/13後援会慰労会
・7/14石巻祥心会見学
・7/23岩沼高へ支援センター説明会
・7/28西多賀支援校進路支援連絡協議会
・7/30市団協行政懇談会
・8/3求人活動／東北文化学園＋9/9
・8/20新職面接
・8/25求人活動／仙台医療秘書専
・8/29移動ネットワークみやぎ理事会
・9/6東文化町内会班集会／すきっぷ
・9/15設備点検／共栄防災
・9/17市要望回答懇談
・10/1法人防災訓練
・10/13久保野理事、弁護士見学
・10/17法人就職説明会
・10/28産業医来所、情報共有
・10/29内部研修及び法人座談会
・11/9パソコン更新作業
・11/15採用試験①
・11/18わらしべ舎来所／情報共有
・11/21法人就職説明会②
・11/28法人監事監査
・11/24就職試験前見学／学生三名
・11/27福運運転者講習会
・12/1介護人連絡会
・12/1,5マイナンバー説明会
・12/6採用試験②
・12/8市への要望訪問
・12/14個人情報管理について市来所
・12/17ヘルプ雇用契約化検討開始
・12/25館内の大掃除
・1/8管理者評価用論文提出締切日
・1/13市へ訪問
・1/21なのはな視察研修／すきっぷ
・1/26レスパイト連協で市と懇談
・1/21-31人事考課自己評価期間
・2/9レスパイト連絡会
・2/13若区みんつく福祉祭り
・2/19コスモス視察研修/ぴぼっと
・2/21ヘルパー雇用契約説明会
・2/22市指定相談事業集団指導
・3/1より人事面談開始
・3/3育休明け職員勤務開始
・3/10市の居宅介護集団指導
・3/14就労B説明会等/相談
・3/16苦情解決委員会
・3/18退職者送別会
・3/23福運講習会
・3/23新職員オリエンテーション
・3/24.,26評議員会、理事会にて次年度事業計画説明
・3/27区班総会及び側溝清掃

6. 見学・来訪者一覧表（平成27年度）

実施月	来訪者										小計
	見学者	実習者	一般来訪者	利用者・家族	業者関係	関係機関	介護人・ヘルパー	地域関係	法人内	寄付・寄贈	
4月	1	0	2	11	10	3	7	6	16	2	58
5月	0	0	6	12	11	8	5	2	8	2	54
6月	1	0	1	7	17	5	6	3	10	0	50
7月	1	0	1	14	12	5	9	3	7	2	54
8月	0	0	1	10	5	2	9	2	9	0	38
9月	3	0	0	28	7	6	7	2	15	0	68
10月	8	0	0	16	12	7	11	4	9	2	69
11月	5	0	3	7	7	3	7	2	14	0	48
12月	0	0	1	11	8	7	14	0	11	0	52
1月	0	0	0	7	1	9	5	3	11	0	36
2月	1	0	1	8	5	4	6	4	10	0	39
3月	0	0	0	10	8	9	21	1	16	0	65
合計	20	0	16	141	103	68	107	32	136	8	631

平成27年度 仙台市障害者相談支援事業及び仙台市障害児等療育支援事業実績報告書

実施主体名称		社会福祉法人　つどいの家
実施施設	名　称	地域生活サポートセンター　ピボット若林　障害者相談支援事業所　くれよん
	住　所	若林区遠見塚2－16－15　ピボット若林内

対象	実人員	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他
障害者	55	9	3	40	13	11	1	2	0
障害児	34	2	8	22	1	14	0	0	1
計	89	11	11	62	14	25	1	8	1

支　援　方　法

方法分類	訪　問	来所相談	同　行	電話相談	電子メール	個別支援会議	関係機関	その他	計
延件数	90	22	28	252	70	36	278	0	776

支　援　内　容

内容分類	①福祉サービスの利用	②障害や症状の理解	③健康・医療	④不安の解消・情緒安定	⑤保育・教育	⑥家族関係・人間関係	⑦家計・経済
延件数	412	76	141	56	40	116	45
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0	0	0

内容分類	⑧生活技術	⑨就労	⑩社会参加・余暇活動	⑪権利擁護	⑫その他		計
延件数	148	66	170	7	9		1286
ピアカウンセラー（再掲）	0	0	0	0	0		0

障害児等療育支援事業

①訪問療育相談事業	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	計
実人数	9	11	16	0	2	0	2	27	27
②外来療育相談事業	身体障害	重症心身障害	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳機能障害	難病	その他	計
実人数	0	0	0	0	0	0	0	0	0
③療育技術指導事業	実施設数	延件数	※①訪問療育相談事業実績件数：129件 ※②外来療育相談事業実績件数：0件						
実数	2	7							

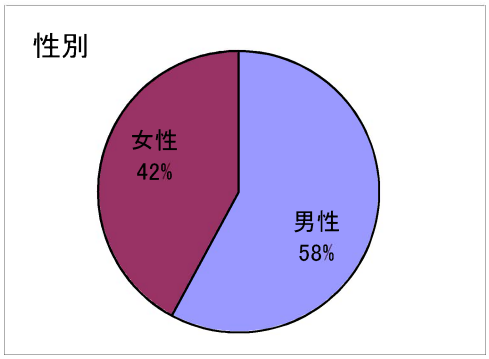
平成27年度　サービス利用計画作成及びモニタリング実施状況　（回数）

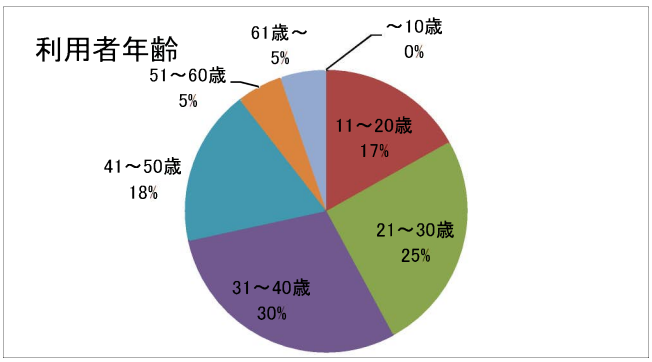
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月平均
計画	11	14	8	12	12	6	16	9	12	16	8	14	138.0	11.5
モニタリング	27	25	26	22	16	16	20	24	15	18	21	13	243.0	20.3
計	38	39	34	34	28	22	36	33	27	34	29	27	381.0	31.8
上内児童	4	3	3	3	4	3	5	4	3	3	4	5	44.0	3.7

ホームヘルプ「ぴぼっと」 平成27年度状況

平成28年3月末時点

1. 平成27年度 登録状況



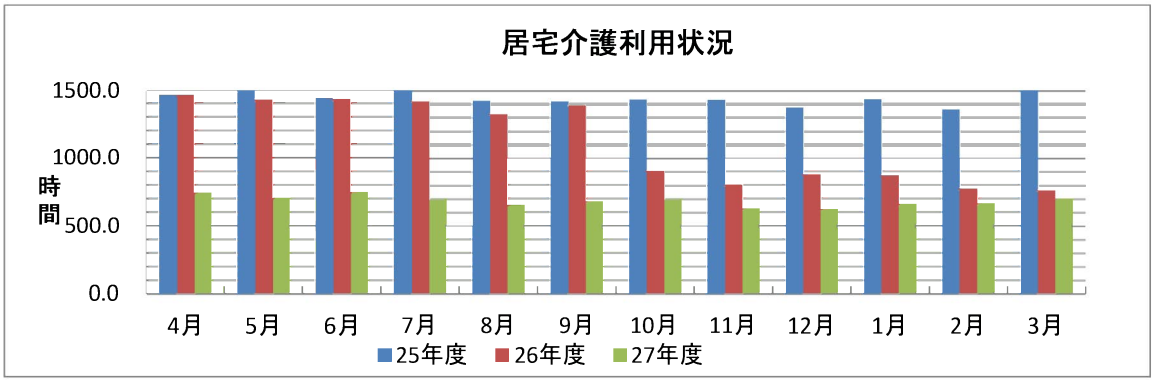


男性	女性	合計
55	40	95

～10歳	11～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳～
0	16	24	28	17	5	5

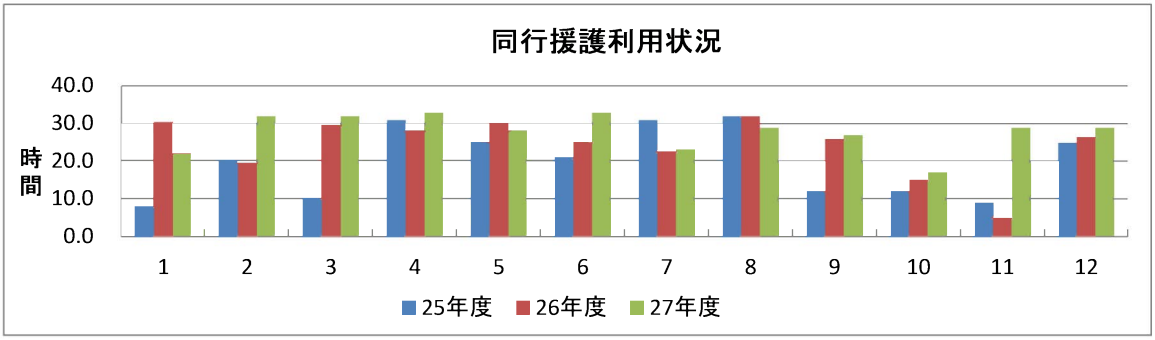
2. 利用状況 ※平成27年10月より「ぺんたす」と居住エリアごとに利用者対応を分担する。

居宅介護



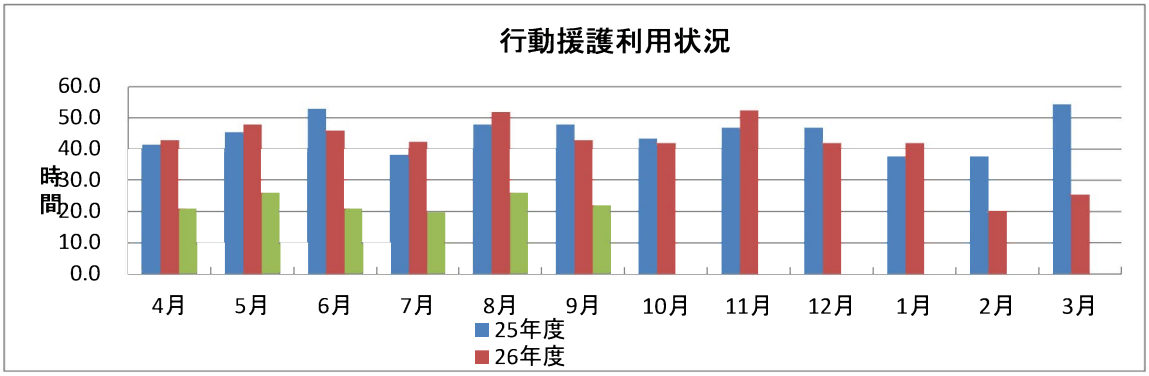
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	1464.0	1540.0	1440.0	1501.0	1428.0	1424.0	1438.0	1434.0	1380.0	1441.0	1364.0	1508.0	17362.0
26年度	1463.5	1428.5	1431.5	1424.0	1330.0	1393.0	910.5	802.5	884.0	871.5	776.5	765.5	13481.0
27年度	744.0	705.0	750.0	696.0	656.0	682.0	696.0	629.0	623.0	661.0	666.0	705.0	8213.0

同行援護



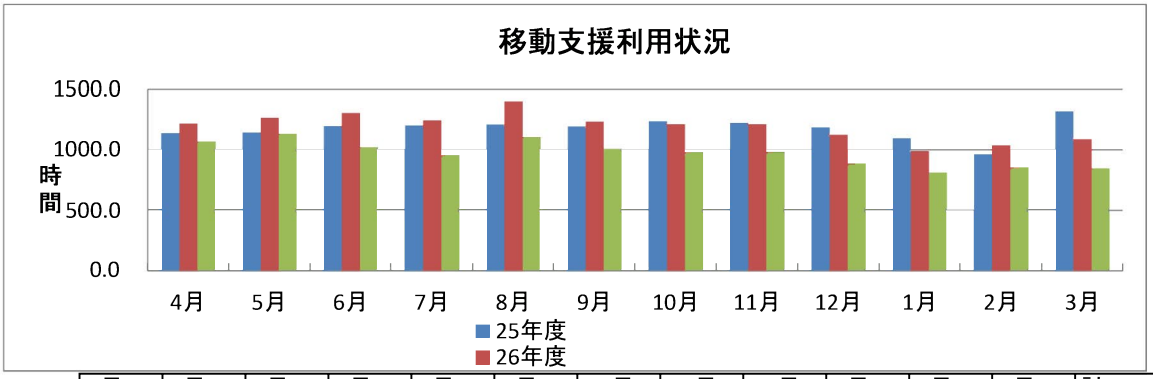
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	8.0	20.0	10.0	31.0	25.0	21.0	31.0	32.0	12.0	12.0	9.0	25.0	236.0
26年度	30.5	19.5	29.5	28.0	30.0	25.0	22.5	32.0	26.0	15.0	5.0	26.5	289.5
27年度	22.0	32.0	32.0	33.0	28.0	33.0	23.0	29.0	27.0	17.0	29.0	29.0	334.0

行動援護



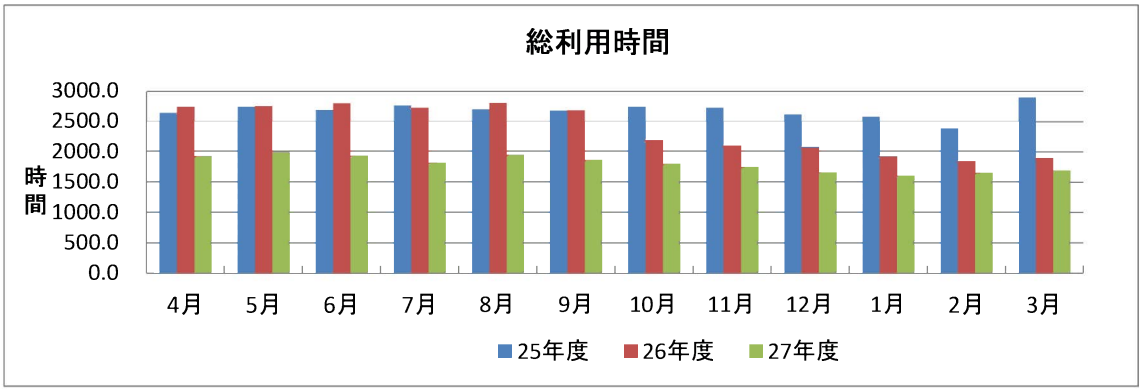
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	41.5	45.5	53.0	38.0	48.0	48.0	43.5	47.0	47.0	37.5	37.5	54.5	541.0
26年度	43.0	48.0	46.0	42.5	52.0	43.0	42.0	52.5	42.0	42.0	20.0	25.5	498.5
27年度	21.0	26.0	21.0	20.0	26.0	22.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	136.0

移動支援



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	1140.0	1145.0	1197.0	1202.0	1210.0	1196.0	1238.0	1223.0	1188.0	1097.5	964.5	1319.5	14120.5
26年度	1218.0	1267.0	1305.0	1244.0	1402.0	1234.5	1213.5	1212.0	1125.5	992.0	1040.0	1088.0	14341.5
27年度	1071.0	1133.0	1022.0	949.0	1107.0	1010.0	973.0	975.5	879.5	815.0	847.5	849.5	11632.0

総利用時間



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
25年度	2653.5	2750.5	2700.0	2772.0	2711.0	2689.0	2750.5	2736.0	2627.0	2588.0	2375.0	2907.0	32259.5
26年度	2755.0	2763.0	2812.0	2738.5	2814.0	2695.5	2188.5	2099.0	2077.5	1920.5	1841.5	1905.5	28610.5
27年度	1927.0	2002.0	1932.0	1819.0	1948.0	1864.0	1800.0	1747.0	1659.0	1603.0	1654.0	1699.0	21654.0

○ 障害者家族支援等推進事業「すきっぷ」実施状況

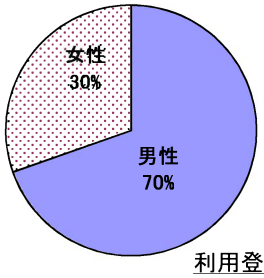
（平成28年3月末日時点）

合計利用登録者数 ： 96 名 （平成26年度比較:＋0）

1. 利用登録者状況

【性別】

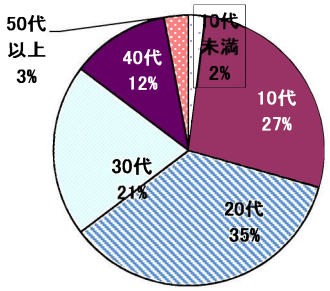
利用登録者	男性	女性
性　別	66	30



利用登録者男女比

【年齢】

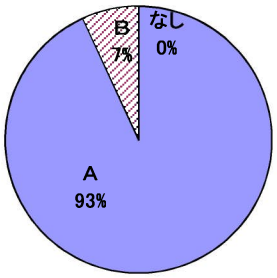
利用登録者	10代未満	10代	20代	30代	40代	50代以上
年齢別	2	20	34	24	11	6



年齢別割合

【療育手帳】

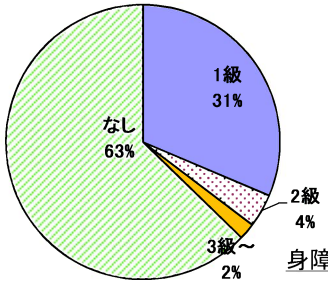
利用登録者	A	B	なし
療育手帳保持	89	7	0



療育手帳保持状況

【身障手帳】

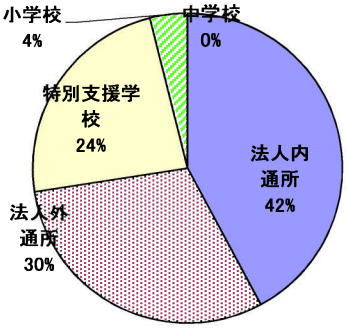
利用登録者	1級	2級	3級～	なし
身障手帳保持	18	8	7	63



身障手帳保持状況

【在籍】

利用登録者	法人内通所	法人外通所	特別支援学校	小学校	中学校	その他
在籍状況	45	32	15	0	2	2



在籍状況

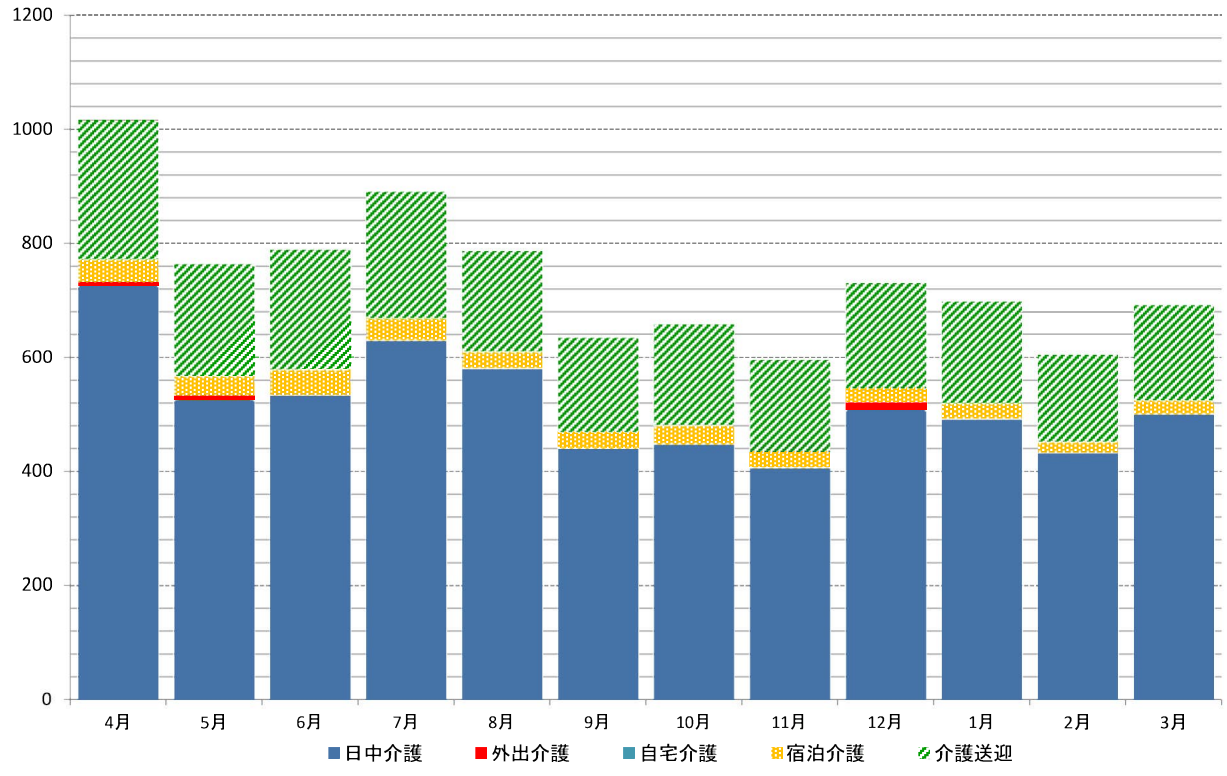
2. 利用状況

（単位:時間）

利用状況	日中介護	外出介護	自宅介護	宿泊介護	介護送迎	月計
4月	408		3	260	188	859
5月	375			350	161	886
6月	331		6	290	176	803
7月	320			240	158	718
8月	392			260	158	810
9月	305			220	142	667
10月	295		6	260	171	732
11月	329	7		260	147	743
12月	353			230	174	757
1月	363		3	250	139	755
2月	285		5	260	127	677
3月	365			280	143	788
合計	4,121	7	23	3,160	1,884	9,195

＊医療レスパイト含む

＊宿泊:1泊＝10時間



グループホーム（共同生活援助（介護包括型グループホーム））事業報告

事業概要

（１）事　業　種　別　　共同生活援助（介護包括型）

（２）事　業　所　名　　ひこうき雲（平成 20 年 5 月 30 日付　宮城県指定）

（３）住居名・所在・利用定員等

住居名	所　　在	事業開始年月	定員／現入居者数（※）
ひこうき雲	仙台市若林区沖野３丁目１６番４８号	平成 16 年 6 月	４名／４名
さくらはうす	仙台市泉区南光台東１丁目１０番１９号	平成 20 年 6 月	５名／５名
オキーノ	仙台市若林区沖野１丁目３１番１２号	平成 21 年 6 月	４名／４名
ひかりはうす	仙台市泉区南光台東１丁目４６番２１号	平成 22 年 7 月	５名／５名

※　現入居者数は、平成 28 年 3 月末日現在

当法人では、重いしょうがいの方の住まいの場の拡充を目指し、新規グループホームの整備に向け、プロジェクト会議を開催する等の準備を重ねてきた。しかしながら、東日本大震災からの復興、復旧や土地、建物の取得、人材の確保、入居希望者が少数等、グループホーム整備計画はあったものの、なかなか進まない状況にあった。今年度 12 月、今後のグループホーム開設の方向性を検討するため、全通所利用者を対象に「グループホーム入居希望調査」を実施した。自立を目指す本人の希望や家族の高齢化などにより、あらためてグループホームのニーズの高まりを感じた。そして、今回、ハウスメーカーにはたらきかけ、土地所有者の建貸により、沖野地区に男性グループホーム（定員 6 名予定）を整備することとなった（28 年度秋頃の開設予定）。次年度は、新規グループホーム開設に向け、入居する本人、家族とともに協力しながら、準備を進めていくこととなる。医療的ケアの必要な方のグループホームについては、仙台市は、「医療的ケア対応型グループホーム事業」をモデル的に開始し、看護師等の人件費補助を制度化した。しかしながら、まだ検証中であり、今後の取り組みの方向性は決まっていない。そのため、医療的ケアの必要な入居者のグループホーム創設に向けては、仙台市の施策や他法人の情報を取集し、時間をかけ進めていく必要がある。

グループホームにおいて、年間を通しての大きな課題は職員の人材の確保、育成である。グループホームはどうしても密室での関わりとなり、職員個々の力量により、入居者一人ひとりの生活の仕方が左右されてしまいがちである。入居者への対応（プライバシーや呼称等）について、職員間の共通認識をあらためて行う必要性が高いことから、昨年度「きほんのき」（GH 学会刊行）を全職員へ配布した。今年度は、各ホーム職員会議において、「きほんのき」を活用し、日々の支援の振り返りを行う機会を設けた。また、全職員（非常勤職員）が通所施設にて 2 日間の実習/研修を実施し、通所施設職員との意見交換をする場を設けた。

グループホームの管理機能の集約にあたる居住支援センター創設も課題であり、他事業との組み合わせ等について検討したが、構想はあるものの進捗には至らなかった。次年度は、暫定的に賃貸物件を居住支援センターとする方向であるため、新規グループホームの開設とともにグループホームの管理機能を強化するために、居住支援センターの開設準備を進めていかねばならない。

グループホームは、24 時間 365 日の勤務体制が求められる。職員の勤務体制は、いくつものパターン

からなり、労務管理面の整備の必要性が生じたため、今年度から各ホームでタイムカードを導入した。今後も労務管理面における整備を確実に行っていかねばならない。さらに、年々、入居者の体調不良等によるイレギュラーな通院援助や入院も増えている。また、職員は夜勤に従事し、勤務時間が長時間となるため、身体的、精神的な負担が否めない。そこで課題となるのが、勤務形態の抜本的な見直しである。すぐに解決できる課題ではないが、次年度は、見直しに向けて着手していきたい。

今年度は、消防法改正によるグループホームへのスプリンクラー設備設置義務化に伴い、国庫補助事業をうけ、全グループホームにスプリンクラーの整備を進めた。

今年度の自立体験ステイについては、昨年度に引き続き、実施場所の確保や宿泊介護人の体制確保面等の課題があり、休止した。

○重点課題に対する評価

分類	重点課題	具体的取組	評価等
入居者主体の住まいの場	入居者が安心して暮らせる住まい作り	・全職員への個別支援計画の周知徹底 ・通所施設との連携、通所施設での取組の理解 ・入居者懇談会での意思の汲み取り ・通信等を発行し、グループホームでの生活や入居者の思い等を発信する	・各ホームの職員会議のなかで、利用者状況や個別支援計画の把握を実施。 ・グループホームと通所事業所の個別支援計画については、南北 GH 連絡会にて意見交換を実施。 ・毎月、各ホーム代表による入居者懇談会を実施し、入居者の声を聞く機会を設けた。 ・「ももたろう通信」を創刊し、グループホームの情報を発信。
健康管理	入居者の健康面の実態把握	・日々の健康チェックによる状況把握 ・加齢により今後予想される変化への対策 ・通院同行による主治医との連携 ・通所施設、訪問看護との情報共有	通院同行し、主治医との情報共有を行う。必要に応じて通所 NS との話し合いを実施。
人材確保・育成	支援体制の構築を図る	・通所、ヘルパー、レスパイト事業所等と連携した人材の確保・育成	ホーム周辺にて通所施設と連携し、職員募集チラシを配布する。チラシ配布による求人では人材の確保は難しい状況。
	職員間の情報共有と支援に対する意識向上	・各ホーム職員会議の定期的実施 ・内部研修（グループホーム全体職員研修会）の年 2 回の実施 ・通所施設における研修の実施	各ホームにて、2 ヶ月に 1 回程度職員会議を実施。内部研修は職員全体研修会を年 2 回実施。全職員（非常勤）を対象に 2 日間、通所事業所にて実習/研修を実施。

事業運営・展開	居住支援全般における安定した事業運営を図る 事務的な整備	・居住支援センター創設に向けた検討 ・今後の居住支援の展開について検討 ・夜間支援体制（夜勤/宿直）の在り方について検討 ・諸経費の状況把握と適切な見直し ・書類の整備、事務的処理の厳格化	・居住サポートセンター創設については、検討委員会で意見交換を図ったものの具体的な動きは未実施。 ・各ホーム及び全体保管書類について、分別、整理中である。
家族との関わり	入居者のケアホームでの生活を家族と共有する	・各ホーム家族懇談会の実施 ・グループホーム全体家族懇談会の実施 ・成年後見制度活用に向けた話し合い	・各ホームで懇談会を実施（南部ホームは合同）。全体家族懇談会は未実施。
地域への働きかけ	一住民として地域とつながる	・町内会活動への入居者の積極的な参加 ・大規模震災や火災時の避難訓練の計画的実施 ・地域と共同での避難訓練実施	・各ホームにて町内会活動（清掃、夏祭り、防災訓練等）に参加。 ・年間計画に基づき、定期的に防災訓練（避難訓練）を実施。
他機関との連携	グループホームに関する情報の収集及び諸課題に対する共通理解	・他機関（他 GH、日本 GH 学会等）と連携し、グループホーム運営に関する情報の収集（見学含）を行うとともに顕在化された諸課題を他機関ともに考える	他法人、日本 GH 学会等から情報の収集、諸課題の整理を行う。

◇職員研修等

１．諸会議

会議名	頻度	内　　容
チーフ会議	月２回	法人、GH 運営の方向性、事業報告、課題検討など
職員会議	隔月１回	GH 運営の方向性、課題検討、意見交換、学習会など
南部/北部ホーム会議	月１回	諸会議報告、個別支援計画状況確認、意見交換など
各ホーム職員会議	隔月１回	入居者状況把握、個別支援計画確認、意見交換など
個別支援計画会議	年度初/中間/末	個別支援計画立案、見直し、検討など
家族懇談会	年２回程度	GH 全体状況確認、入居者状況把握、意見交換など
南部/北部グループホーム連絡会	年４回程度	各事業（GH/通所/ヘルプ/相談）情報共有、意見交換等
入居者懇談会	月１回	意見交換、入居者イベント企画など

※　その他法人内各種委員会へ委員会担当が参加

２．内部研修

グループホーム全体職員研修会、A 型センターにて

（6/20：緊急対応等について 12/4：てんかん発作について、感染症について）

権利擁護委員会主催内部研修（南北 GH 別に実施）（10/23、11/16）A 型センターにて

法人全体内部研修（非常勤職員）（7/1）コペルにて

３．職員研修

・衛生推進者研修（北島）
・甲種防火管理者講習（髙橋）
・第 53 回全国知的障害福祉関係職員研究大会（高知）（加藤）
・第 27 回全国グループホーム等研修会東北地区大会（仙台）（飯田、寺田）
・仙団協メンタルヘルスケア研修（加藤）
・仙台市障害者家族支援等推進事業連絡会研修会（木村）
・アーチル発達障害特別講座（加藤、寺田）
・県障害者相談支援従事者初任者研修（北島）
・仙台市グループホーム研修会（飯田、加藤）
・福祉セミナー～アンガーマネジメント（佐藤敦、斎藤）
・りーの会職員合同研修会（先進地視察研修報告等）（加藤、今野、佐藤敦）
・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修）（廣島）
・強度行動障害支援者養成研修（基礎研修/実践研修）（飯田、加藤）
・視察研修（訪問の家（横浜））（髙橋、寺田）

※その他法人内職位別研修へ対象職員が参加

≪　参考資料　≫

利　用　実　績　報　告

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

◆ 日中活動支援

《つどいの家・コペル》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	733	669	771	765	640	645	765	678	701	656	716	760	8,499	708.3
利用率(%)	92.2%	93.6%	89.4%	91.6%	85.9%	87.5%	88.1%	88.5%	92.4%	86.8%	89.0%	88.0%	-	89.4%
開所日数	21	19	22	22	19	19	22	20	20	20	21	23	248	20.7
H26年度利用実績(人)	701	699	723	786	651	664	785	645	674	654	673	781	8,436	703.0
利用率(%)	83.1%	88.9%	85.1%	85.2%	86.7%	84.6%	84.0%	83.7%	82.6%	82.2%	82.3%	85.8%	-	84.5%
開所日(日)	20	20	21	23	19	21	23	19	20	20	20	22	248	20.7
前年度実績比較(人)	32	△ 30	48	△ 21	△ 11	△ 19	△ 20	33	27	2	43	△ 21	63	5.3
利用率(%)	9.1%	4.7%	4.3%	6.4%	-0.8%	2.9%	4.1%	4.8%	9.8%	4.6%	6.7%	2.2%	-	4.9%
開所日(日)	1	△ 1	1	△ 1	0	△ 2	△ 1	1	0	0	1	1	0	0.0

《仙台つどいの家》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	597	538	645	615	534	505	612	588	561	550	594	686	7,025	585.4
利用率(%)	83.4%	89.2%	83.8%	79.9%	78.9%	80.2%	82.9%	84.7%	84.1%	78.6%	80.8%	85.2%	-	82.6%
開所日(日)	21	19	22	22	20	18	22	20	20	20	21	23	248	20.7
H26年度利用実績(人)	572	573	604	639	506	589	621	507	511	525	519	624	6,790	565.8
利用率(%)	82.7%	83.7%	85.0%	84.0%	80.4%	84.3%	82.4%	82.4%	77.5%	79.4%	80.3%	83.4%	-	82.1%
開所日(日)	21	21	21	23	19	22	23	18	20	20	19	22	249	20.8
前年度実績比較(人)	25	△ 35	41	△ 24	28	△ 84	△ 9	81	50	25	75	62	235	19.6
利用率(%)	0.7%	5.5%	-1.2%	-4.1%	-1.5%	-4.1%	0.5%	2.3%	6.6%	-0.8%	0.5%	1.8%	-	0.5%
開所日(日)	0	△ 2	1	△ 1	1	△ 4	△ 1	2	0	0	2	1	△ 1	△ 0.1

《つどいの家・アプリ》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	657	592	707	635	556	600	693	623	628	611	665	698	7,665	638.8
利用率(%)	92.5%	92.2%	95.2%	90.7%	91.1%	92.8%	93.0%	91.8%	92.8%	90.3%	93.8%	98.5%	-	92.9%
開所日(日)	21	19	22	21	18	19	22	20	20	20	21	23	246	20.5
H26年度利用実績(人)	694	672	701	758	597	696	747	634	640	649	668	737	8,193	682.8
利用率(%)	94.3%	91.4%	95.2%	94.0%	94.3%	94.1%	92.1%	94.4%	90.4%	91.8%	94.4%	94.6%	-	93.4%
開所日(日)	21	21	21	23	18	21	23	19	20	20	20	22	249	20.8
前年度実績比較(人)	△ 37	△ 80	6	△ 123	△ 41	△ 96	△ 54	△ 11	△ 12	△ 38	△ 3	△ 39	△ 528	△ 44.0
利用率(%)	-1.8%	0.8%	0.0%	-3.3%	-3.2%	-1.3%	0.9%	-2.6%	2.4%	-1.5%	-0.6%	3.9%	-	-0.5%
開所日(日)	0	△ 2	1	△ 2	0	△ 2	△ 1	1	0	0	1	1	△ 3	△ 0.3

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《オリザ》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	73	60	87	71	52	51	70	59	69	54	66	72	784	65.3
利用率(%)	57.9%	55.0%	65.4%	54.2%	44.8%	45.1%	53.4%	49.2%	57.5%	45.0%	52.0%	53.0%	-	52.7%
開所日(日)	21	19	22	22	18	19	22	19	20	20	21	23	246	20.5
H26年度利用実績(人)	66	76	73	90	66	75	70	65	68	58	58	80	845	70.4
利用率(%)	58.0%	68.0%	62.0%	70.0%	61.7%	64.1%	54.3%	64.4%	60.7%	51.8%	53.7%	67.2%	-	61.3%
開所日(日)	20	20	21	23	19	21	23	18	20	20	20	22	247	20.6
前年度実績比較(人)	7	△ 16	14	△ 19	△ 14	△ 24	0	△ 6	1	△ 4	8	△ 8	△ 61	△ 5.1
利用率(%)	-0.1%	-13.0%	3.4%	-15.8%	-16.9%	-19.0%	-0.9%	-15.2%	-3.2%	-6.8%	-1.7%	-14.2%	-	-8.6%
開所日(日)	1	△ 1	1	△ 1	△ 1	△ 2	△ 1	1	0	0	1	1	△ 1	△ 0.1

《さんしょ》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	106	93	111	100	93	90	108	79	74	79	85	108	1,126	93.8
利用率(%)	91.4%	93.0%	93.3%	85.5%	91.2%	90.9%	90.8%	79.0%	69.2%	71.2%	74.6%	85.0%	-	84.6%
開所日(日)	21	19	22	22	20	18	22	20	20	20	21	23	248	20.7
H26年度利用実績(人)	86	86	88	96	77	83	92	67	75	80	79	91	1,000	83.3
利用率(%)	97.7%	93.4%	96.7%	96.0%	96.2%	91.2%	89.3%	81.7%	86.2%	93.0%	92.9%	95.8%	-	92.5%
開所日(日)	21	21	21	23	19	22	23	18	20	20	19	22	249	20.8
前年度実績比較(人)	20	7	23	4	16	7	16	12	△ 1	△ 1	6	17	126	10.5
利用率(%)	-6.3%	-0.4%	-3.4%	-10.5%	-5.0%	-0.3%	1.5%	-2.7%	-17.0%	-21.8%	-18.3%	-10.8%	-	-7.9%
開所日(日)	0	△ 2	1	△ 1	1	△ 4	△ 1	2	0	0	2	1	△ 1	△ 0.1

《ミント》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	71	81	101	101	80	86	96	72	84	83	93	106	1,054	87.8
利用率(%)	76.3%	91.0%	94.4%	100.0%	90.9%	97.7%	92.3%	80.8%	89.3%	89.2%	94.9%	99.1%	-	91.3%
開所日(日)	20	19	22	21	18	19	21	18	19	19	20	22	238	19.8
H26年度利用実績(人)	52	53	48	55	40	55	49	39	48	52	52	61	604	50.3
利用率(%)	81.3%	81.5%	71.6%	79.7%	69.0%	85.9%	67.1%	68.4%	78.7%	83.9%	85.2%	87.1%	-	78.3%
開所日(日)	20	20	21	22	18	20	22	17	19	19	19	22	239	19.9
前年度実績比較(人)	19	28	53	46	40	31	47	33	36	31	41	45	450	37.5
利用率(%)	-5.0%	9.5%	22.8%	20.3%	21.9%	11.8%	25.2%	12.4%	10.6%	5.3%	9.7%	12.0%	-	13.0%
開所日(日)	0	△ 1	1	△ 1	0	△ 1	△ 1	1	0	0	1	0	△ 1	△ 0.1

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《八木山つどいの家》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	148	128	165	156	144	125	159	131	147	127	148	161	1,739	144.9
利用率(%)	85.5%	83.1%	86.8%	86.7%	92.3%	76.6%	94.0%	78.9%	89.6%	77.9%	86.0%	85.1%	-	85.2%
開所日(日)	20	18	22	21	18	19	21	19	19	19	20	22	238	19.8
H26年度利用実績(人)	126	130	140	150	118	126	126	111	115	120	115	128	1,505	125.4
利用率(%)	90.0%	90.9%	83.3%	85.2%	82.5%	74.1%	74.5%	81.6%	79.9%	82.8%	79.3%	81.5%	-	82.1%
開所日(日)	20	20	20	22	18	21	21	18	19	19	19	22	239	19.9
前年度実績比較(人)	22	△ 2	25	6	26	△ 1	33	20	32	7	33	33	234	19.5
利用率(%)	-4.5%	-7.8%	3.5%	1.5%	9.8%	2.5%	19.5%	-2.7%	9.7%	-4.9%	6.7%	3.6%	-	3.1%
開所日(日)	0	△ 2	2	△ 1	0	△ 2	0	1	0	0	1	0	△ 1	△ 0.1

《若林障害者福祉センター》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	95	101	104	112	108	105	109	86	85	93	86	110	1,194	99.5
利用率(%)	96.9%	83.5%	82.5%	81.2%	85.7%	83.3%	79.0%	77.5%	76.6%	77.5%	78.2%	77.5%	-	81.6%
開所日(日)	21	21	21	23	21	21	23	19	19	20	19	23	251	20.9
H26年度利用実績(人)	89	95	91	103	92	98	101	93	82	83	84	95	1,106	92.2
利用率(%)	78.1%	79.2%	83.5%	81.1%	78.0%	90.7%	82.1%	84.5%	83.7%	84.7%	78.5%	86.4%	-	82.5%
開所日(日)	21	22	20	23	22	20	23	21	19	20	19	21	251	20.9
前年度実績比較(人)	6	6	13	9	16	7	8	△ 7	3	10	2	15	88	7.3
利用率(%)	18.8%	4.3%	-1.0%	0.1%	7.7%	-7.4%	-3.1%	-7.0%	-7.1%	-7.2%	-0.3%	-8.9%	-	-0.9%
開所日(日)	0	△ 1	1	0	△ 1	1	0	△ 2	0	0	0	2	0	0.0

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

◆ 地域生活支援

《すてっぷ・はうす》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(h)	789	717	739	797	888	888	853	703	734	632	791	1,064	9,595	799.6
日中介護(h)	410	332	342	414	460	394	398	318	343	305	368	528	4,612	384.3
宿泊介護(h)	180	210	210	190	240	310	260	200	210	160	220	320	2,710	225.8
介護送迎(h)	199	175	187	193	188	184	195	185	181	167	203	216	2,273	189.4
外出介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
H26年度利用実績(h)	541	598	507	668	915	708	738	881	762	606	642	1,007	8,573	714.4
日中介護(h)	288	289	245	351	489	313	338	428	366	299	321	473	4,200	350.0
宿泊介護(h)	110	160	120	160	260	240	220	250	220	150	150	310	2,350	195.8
介護送迎(h)	143	149	142	157	166	155	180	203	175	157	171	224	2,022	168.5
外出介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.1
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
前年度実績比較(h)	248	119	232	129	△ 27	180	115	△ 178	△ 28	26	149	57	1,022	85.2
日中介護(h)	122	43	97	63	△ 29	81	60	△ 110	△ 23	6	47	55	412	34.3
宿泊介護(h)	70	50	90	30	△ 20	70	40	△ 50	△ 10	10	70	10	360	30.0
介護送迎(h)	56	26	45	36	22	29	15	△ 18	6	10	32	△ 8	251	20.9
外出介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	△ 1	0	0	0	△ 1	△ 0.1
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

《すきっぷ》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(h)	859	886	803	718	810	667	732	743	757	755	677	788	9,195	766.3
日中介護(h)	408	375	331	320	392	305	295	329	353	363	285	365	4,121	343.4
宿泊介護(h)	260	350	290	240	260	220	260	260	230	250	260	280	3,160	263.3
介護送迎(h)	188	161	176	158	158	142	171	147	174	139	127	143	1,884	157.0
外出介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	7	0.6
自宅介護(h)	3	0	6	0	0	0	6	0	0	3	5	0	23	1.9
H26年度利用実績(h)	747	674	715	788	820	679	804	780	723	632	628	857	8,847	737.3
日中介護(h)	359	287	265	301	383	279	318	330	318	294	271	392	3,797	316.4
宿泊介護(h)	190	210	270	290	260	240	280	280	230	190	190	260	2,890	240.8
介護送迎(h)	189	175	175	179	175	159	189	170	169	145	152	203	2,080	173.3
外出介護(h)	7	0	5	18	0	0	7		5	0	12	0	54	4.9
自宅介護(h)	2	2	0	0	2	1	10		1	3	3	2	26	2.4
前年度実績比較(h)	112	212	88	△ 70	△ 10	△ 12	△ 72	△ 37	34	123	49	△ 69	348	29.0
日中介護(h)	49	88	66	19	9	26	△ 23	△ 1	35	69	14	△ 27	324	27.0
宿泊介護(h)	70	140	20	△ 50	0	△ 20	△ 20	△ 20	0	60	70	20	270	22.5
介護送迎(h)	△ 1	△ 14	1	△ 21	△ 17	△ 17	△ 18	△ 23	5	△ 6	△ 25	△ 60	△ 196	△ 16.3
外出介護(h)	△ 7	0	△ 5	△ 18	0	0	△ 7	7	△ 5	0	△ 12	0	△ 47	△ 3.9
自宅介護(h)	1	△ 2	6	0	△ 2	△ 1	△ 4	0	△ 1	0	2	△ 2	△ 3	△ 0.3

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《だいち》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(h)	626	611	657	820	775	744	760	710	721	585	643	714	8,366	697.2
日中介護(h)	407	399	379	502	519	447	434	414	435	357	347	418	5,058	421.5
宿泊介護(h)	120	120	180	230	170	170	200	170	180	150	190	180	2,060	171.7
介護送迎(h)	97	89	95	87	86	109	119	120	104	72	104	108	1,190	99.2
外出介護(h)	2	3	3	1	0	18	7	6	2	6	2	8	58	4.8
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
H26年度利用実績(h)	933	886	824	917	887	670	739	652	672	568	642	787	9,177	764.8
日中介護(h)	585	500	511	543	645	407	426	395	401	373	329	494	5,609	467.4
宿泊介護(h)	230	260	170	240	160	160	190	150	170	100	190	180	2,200	183.3
介護送迎(h)	117	125	140	130	82	103	118	96	97	86	121	109	1,324	110.3
外出介護(h)	1	1	3	4	0	0	5	11	4	9	2	4	44	3.7
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
前年度実績比較(h)	△ 307	△ 275	△ 167	△ 97	△ 112	74	21	58	49	17	1	△ 73	△ 811	△ 67.6
日中介護(h)	△ 178	△ 101	△ 132	△ 41	△ 126	40	8	19	34	△ 16	18	△ 76	△ 551	△ 45.9
宿泊介護(h)	△ 110	△ 140	10	△ 10	10	10	10	20	10	50	0	0	△ 140	△ 11.7
介護送迎(h)	△ 20	△ 36	△ 45	△ 43	4	6	1	24	7	△ 14	△ 17	△ 1	△ 134	△ 11.2
外出介護(h)	1	2	0	△ 3	0	18	2	△ 5	△ 2	△ 3	0	4	14	1.2
自宅介護(h)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

《福祉有償運送》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績	23	25	18	20	13	17	15	18	25	17	24	24	239	19.9
南光台	10	15	9	5	3	3	5	4	13	7	12	15	101	8.4
若　林	9	6	5	11	6	10	6	10	8	8	8	5	92	7.7
支　倉	4	4	4	4	4	4	4	4	4	2	4	4	46	3.8
H26年度利用実績	24	21	27	22	21	20	18	23	25	20	28	14	263	21.9
南光台	12	10	10	8	7	7	7	13	10	8	19	3	114	9.5
若　林	8	6	13	10	10	9	7	6	11	8	6	6	100	8.3
支　倉	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	3	5	49	4.1
前年度実績比較														
延べ件数(人)	△ 1	4	△ 9	△ 2	△ 8	△ 3	△ 3	△ 5	0	△ 3	△ 4	10	△ 24	△ 2

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《くれよん》

		4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
	H27年度利用実績(回)	149	138	163	137	140	134	197	145	134	147	157	158	1,799	149.9
	訪問療育(回)	11	9	12	8	10	11	12	12	12	10	8	14	129	10.8
	訪問相談(回)	40	43	63	41	30	47	64	57	50	45	48	52	580	48.3
	電話相談(回)	51	43	49	45	64	47	80	42	42	54	66	60	643	53.6
	来所相談(回)	8	4	5	8	8	6	5	1	3	2	5	4	59	4.9
	施設支援(回)	1	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1	1	7	0.6
サービス利用計画	初回モニタリング	11	14	8	12	12	6	16	9	12	16	8	14	138	11.5
サービス利用計画	継続モニタリング	27	25	26	22	16	16	20	24	15	18	21	13	243	20.3
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	132	-
	H26年度利用実績(回)	104	94	85	103	102	93	104	88	108	87	94	88	1,150	95.8
	訪問療育(回)	8	12	10	14	7	11	12	9	9	11	8	12	123	10.3
	訪問相談(回)	18	19	12	18	24	20	15	16	26	9	15	20	212	17.7
	電話相談(回)	46	28	29	37	35	36	43	27	40	35	37	25	418	34.8
	来所相談(回)	4	1	5	2	3	1	7	3	2	0	3	2	33	2.8
	施設支援(回)	1	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	4	0.3
サービス利用計画	初回モニタリング	11	15	10	11	10	8	6	11	15	14	9	14	134	11.2
サービス利用計画	継続モニタリング	16	18	19	21	22	17	21	21	16	18	22	15	226	18.8
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	124	-
	前年度実績比較(回)	45	44	78	34	38	41	93	57	26	60	63	70	649	54.1
	訪問療育(回)	3	△ 3	2	△ 6	3	0	0	3	3	△ 1	0	2	6	0.5
	訪問相談(回)	22	24	51	23	6	27	49	41	24	36	33	32	368	30.7
	電話相談(回)	5	15	20	8	29	11	37	15	2	19	29	35	225	18.8
	来所相談(回)	4	3	0	6	5	5	△ 2	△ 2	1	2	2	2	26	2.2
	施設支援(回)	0	△ 1	0	1	△ 1	1	0	△ 1	0	2	1	1	3	0.3
サービス利用計画	初回モニタリング	0	△ 1	△ 2	1	2	△ 2	10	△ 2	△ 3	2	△ 1	0	4	0.3
サービス利用計画	継続モニタリング	11	7	7	1	△ 6	△ 1	△ 1	3	△ 1	0	△ 1	△ 2	17	1.4
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《とびら》

		4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
	H27年度利用実績(回)	126	154	142	143	125	105	121	138	107	136	114	149	1,560	130.0
	訪問療育(回)	4	3	6	7	4	4	5	5	5	2	3	5	53	4.4
	訪問相談(回)	26	32	25	27	27	18	10	18	18	18	20	22	261	21.8
	電話相談(回)	50	52	50	50	55	27	54	41	28	41	27	49	524	43.7
	来所相談(回)	4	10	5	8	5	4	8	10	6	10	5	6	81	6.8
	施設支援(回)	0	3	2	3	0	2	1	1	0	2	2	2	18	1.5
サービス利用計画	初回モニタリング	11	26	21	14	18	19	23	24	21	28	22	23	250	20.8
サービス利用計画	継続モニタリング	31	28	33	34	16	31	20	39	29	35	35	42	373	31.1
サービス利用計画	利用契約数	8	20	15	6	11	2	2	1	3	1	3	2	74	-
	H26年度利用実績(回)	99	95	146	132	103	191	184	109	118	128	104	140	1,549	87.9
	訪問療育(回)	4	1	6	4	3	7	5	5	5	2	4	3	49	15.8
	訪問相談(回)	24	21	31	29	23	46	54	32	43	34	24	46	407	23.3
	電話相談(回)	58	56	81	69	54	90	75	27	42	45	29	40	666	33.9
	来所相談(回)	7	7	12	10	9	24	19	14	8	11	16	6	143	11.9
	施設支援(回)	0	1	2	2	1	1	1	0	0	2	0	1	11	3.3
サービス利用計画	初回モニタリング	2	4	4	8	8	14	17	13	9	15	18	25	137	11.4
サービス利用計画	継続モニタリング	4	5	10	10	5	9	13	18	11	19	13	19	136	11.3
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	82	-
	前年度実績比較(回)	27	59	△ 4	11	22	△ 86	△ 63	29	△ 11	8	10	9	11	0.9
	訪問療育(回)	0	2	0	3	1	△ 3	0	0	0	0	△ 1	2	4	0.3
	訪問相談(回)	2	11	△ 6	△ 2	4	△ 28	△ 44	△ 14	△ 25	△ 16	△ 4	△ 24	△ 146	△ 12.2
	電話相談(回)	△ 8	△ 4	△ 31	△ 19	1	△ 63	△ 21	14	△ 14	△ 4	△ 2	9	△ 142	△ 11.8
	来所相談(回)	△ 3	3	△ 7	△ 2	△ 4	△ 20	△ 11	△ 4	△ 2	△ 1	△ 11	0	△ 62	△ 5.2
	施設支援(回)	0	2	0	1	△ 1	1	0	1	0	0	2	1	7	0.6
サービス利用計画	初回モニタリング	9	22	17	6	10	5	6	11	12	13	4	△ 2	113	9.4
サービス利用計画	継続モニタリング	27	23	23	24	11	22	7	21	18	16	22	23	237	19.8
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△ 8	-

《ゆあらいふ》

		4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
	H27年度利用実績(回)	7	13	7	7	11	10	16	8	16	9	2	25	131	10.9
サービス利用計画	初回モニタリング	6	13	1	1	3	7	9	4	10	3	1	10	68	5.7
サービス利用計画	継続モニタリング	1	0	6	6	8	3	7	4	6	6	1	15	63	5.3
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61	-
	H26年度利用実績(回)	1	3	5	5	3	4	10	4	12	9	10	13	79	87.9
サービス利用計画	初回モニタリング	1	3	5	4	3	4	8	3	6	4	3	8	52	4.3
サービス利用計画	継続モニタリング	0	0	0	1	0	0	2	1	6	5	7	5	27	2.3
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52	-
	前年度実績比較(回)	6	10	2	2	8	6	6	4	4	0	△ 8	12	52	4.3
サービス利用計画	初回モニタリング	5	10	△ 4	△ 3	0	3	1	1	4	△ 1	△ 2	2	16	1.3
サービス利用計画	継続モニタリング	1	0	6	5	8	3	5	3	0	1	△ 6	10	36	3.0
サービス利用計画	利用契約数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

《ぴぼっと》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(h)	1,926.5	2,002.0	1,931.5	1,819.0	1,947.5	1,864.0	1,800.0	1,747.0	1,659.0	1,603.0	1,654.0	1,699.0	21,653	1,804.4
居宅介護(h)	743.5	705.0	749.5	695.5	656.0	682.0	695.5	629.0	622.5	661.0	666.0	704.5	8,210	684.2
重度訪問(h)	69.5	107.5	108.0	121.5	131.0	118.0	108.5	114.0	130.0	110.5	112.0	116.5	1,347	112.3
行動援護(h)	20.5	25.5	21.0	20.0	25.5	21.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	134	11.2
同行援護(h)	22.0	31.5	31.5	33.0	28.0	32.5	23.0	28.5	27.0	16.5	28.5	28.5	331	27.5
移動支援(h)	1,071.0	1,132.5	1,021.5	949.0	1,107.0	1,010.0	973.0	975.5	879.5	815.0	847.5	849.5	11,631	969.3
H26年度利用実績(h)	2,710.5	2,723.5	2,796.5	2,692.5	2,726.0	2,616.0	2,131.5	2,058.0	2,028.0	1,908.0	1,833.0	1,905.0	28,129	2,344.0
居宅介護(h)	1,459.5	1,417.0	1,428.5	1,412.5	1,319.0	1,371.5	870.0	793.0	855.0	859.0	766.5	765.0	13,317	1,109.7
重度訪問(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0
行動援護(h)	43.0	48.0	46.0	42.5	52.0	43.0	42.0	52.5	42.0	42.0	20.0	25.5	499	41.5
同行援護(h)	30.5	19.5	29.5	28.0	30.0	25.0	22.5	32.0	26.0	15.0	6.5	26.5	291	24.3
移動支援(h)	1,177.5	1,239.0	1,292.5	1,209.5	1,325.0	1,176.5	1,197.0	1,180.5	1,105.0	992.0	1,040.0	1,088.0	14,023	1,168.5
前年度実績比較(h)	△ 784.0	△ 721.5	△ 865.0	△ 873.5	△ 778.5	△ 752.0	△ 331.5	△ 311.0	△ 369.0	△ 305.0	△ 179.0	△ 206.0	△ 6476.0	△ 539.7
居宅介護(h)	△ 716.0	△ 712.0	△ 679.0	△ 717.0	△ 663.0	△ 689.5	△ 174.5	△ 164.0	△ 232.5	△ 198.0	△ 100.5	△ 60.5	△ 5106.5	△ 425.5
重度訪問(h)	69.5	107.5	108.0	121.5	131.0	118.0	108.5	114.0	130.0	110.5	112.0	116.5	1347.0	112.3
行動援護(h)	△ 22.5	△ 22.5	△ 25.0	△ 22.5	△ 26.5	△ 21.5	△ 42.0	△ 52.5	△ 42.0	△ 42.0	△ 20.0	△ 25.5	△ 364.5	△ 30.4
同行援護(h)	△ 8.5	12.0	2.0	5.0	△ 2.0	7.5	0.5	△ 3.5	1.0	1.5	22.0	2.0	39.5	3.3
移動支援(h)	△ 106.5	△ 106.5	△ 271.0	△ 260.5	△ 218.0	△ 166.5	△ 224.0	△ 205.0	△ 225.5	△ 177.0	△ 192.5	△ 238.5	△ 2391.5	△ 199.3

《ぺんたす》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(h)	807.8	770.0	790.8	807.8	825.5	836.0	1,097.5	1,081.0	1,065.0	943.5	948.5	1,049.5	11,022.9	918.6
居宅介護(h)	604.8	547.0	571.8	601.8	600.5	613.0	650.0	643.0	691.5	558.0	548.0	684.5	7,313.9	609.5
行動援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	21.0	28.5	20.5	20.0	127.5	10.6
同行援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	10.0	13.0	8.5	43.0	3.6
移動支援(h)	203.0	223.0	219.0	206.0	225.0	223.0	435.0	413.0	341.0	347.0	367.0	336.5	3,538.5	294.9
H26年度利用実績(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	685.0	699.5	668.5	686.5	661.0	703.0	4,103.5	342.0
居宅介護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	593.5	567.0	572.0	602.0	545.5	626.0	3,506.0	292.2
行動援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
同行援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
移動支援(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	91.5	132.5	96.5	84.5	115.5	77.0	597.5	49.8
前年度実績比較(h)	807.8	770.0	790.8	807.8	825.5	836.0	412.5	381.5	396.5	257.0	287.5	346.5	6,919.4	576.6
居宅介護(h)	604.8	547.0	571.8	601.8	600.5	613.0	56.5	76.0	119.5	△ 44.0	2.5	58.5	3,807.9	317.3
行動援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	21.0	28.5	20.5	20.0	127.5	10.6
同行援護(h)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	10.0	13.0	8.5	43.0	3.6
移動支援(h)	203.0	223.0	219.0	206.0	225.0	223.0	343.5	280.5	244.5	262.5	251.5	259.5	2,941.0	245.1

平成27年度利用実績報告(平成27年4月～平成28年3月)

◆ 居住支援事業

《グループホーム》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績(人)	529	542	534	531	531	527	544	529	547	532	512	546	6,404	533.7
ひこうき雲	117	118	117	122	119	118	120	118	121	117	114	122	1,423	118.6
さくらはうす	142	145	147	146	140	140	145	141	147	137	137	146	1,713	142.8
オキーノ	120	124	120	108	119	120	124	120	124	124	116	124	1,443	120.3
ひかりはうす	150	155	150	155	153	149	155	150	155	154	145	154	1,825	152.1
H26年度利用実績(人)	524	535	519	538	508	522	544	521	520	535	493	546	6,305	525.4
ひこうき雲	119	122	119	119	113	115	121	115	123	115	108	118	1,407	117.3
さくらはうす	142	147	142	143	126	142	146	137	125	141	133	149	1,673	139.4
オキーノ	118	121	116	121	119	119	124	120	124	124	112	124	1,442	120.2
ひかりはうす	145	145	142	155	150	146	153	149	148	155	140	155	1,783	148.6
前年度実績比較(人)	5	7	15	△ 7	23	5	0	8	27	△ 3	19	0	99	8.3
ひこうき雲	△ 2	△ 4	△ 2	3	6	3	△ 1	3	△ 2	2	6	4	16	1.3
さくらはうす	0	△ 2	5	3	14	△ 2	△ 1	4	22	△ 4	4	△ 3	40	3.3
オキーノ	2	3	4	△ 13	0	1	0	0	0	0	4	0	1	0.1
ひかりはうす	5	10	8	0	3	3	2	1	7	△ 1	5	△ 1	42	3.5

《自立体験ステイ》

	4月実績	5月実績	6月実績	7月実績	8月実績	9月実績	10月実績	11月実績	12月実績	1月実績	2月実績	3月実績	合計	月平均
H27年度利用実績														
延べ人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延べ泊数(泊)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
H26年度利用実績														
延べ人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延べ泊数(泊)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
前年度実績比較														
延べ人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
延べ泊数(泊)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0